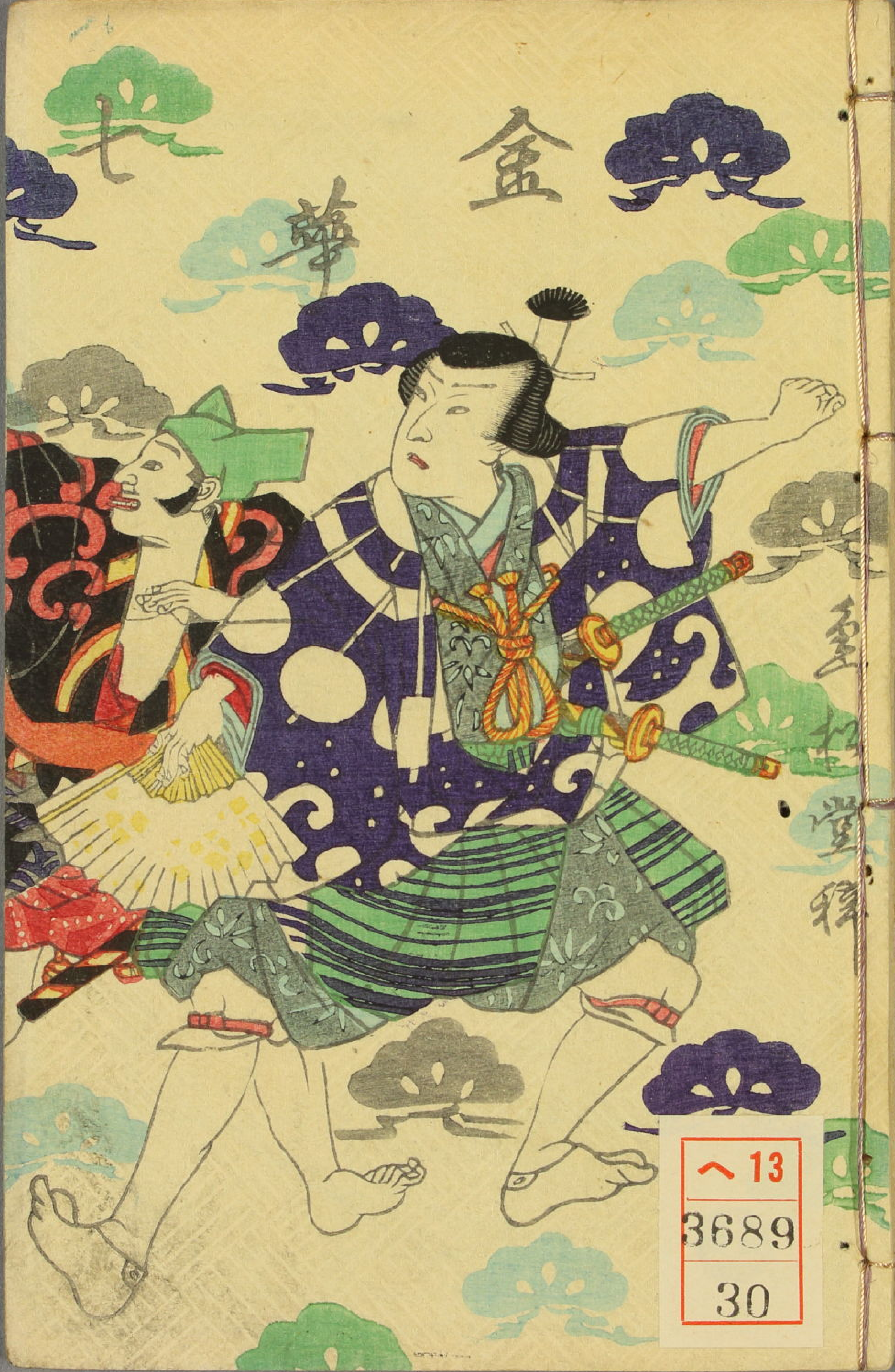
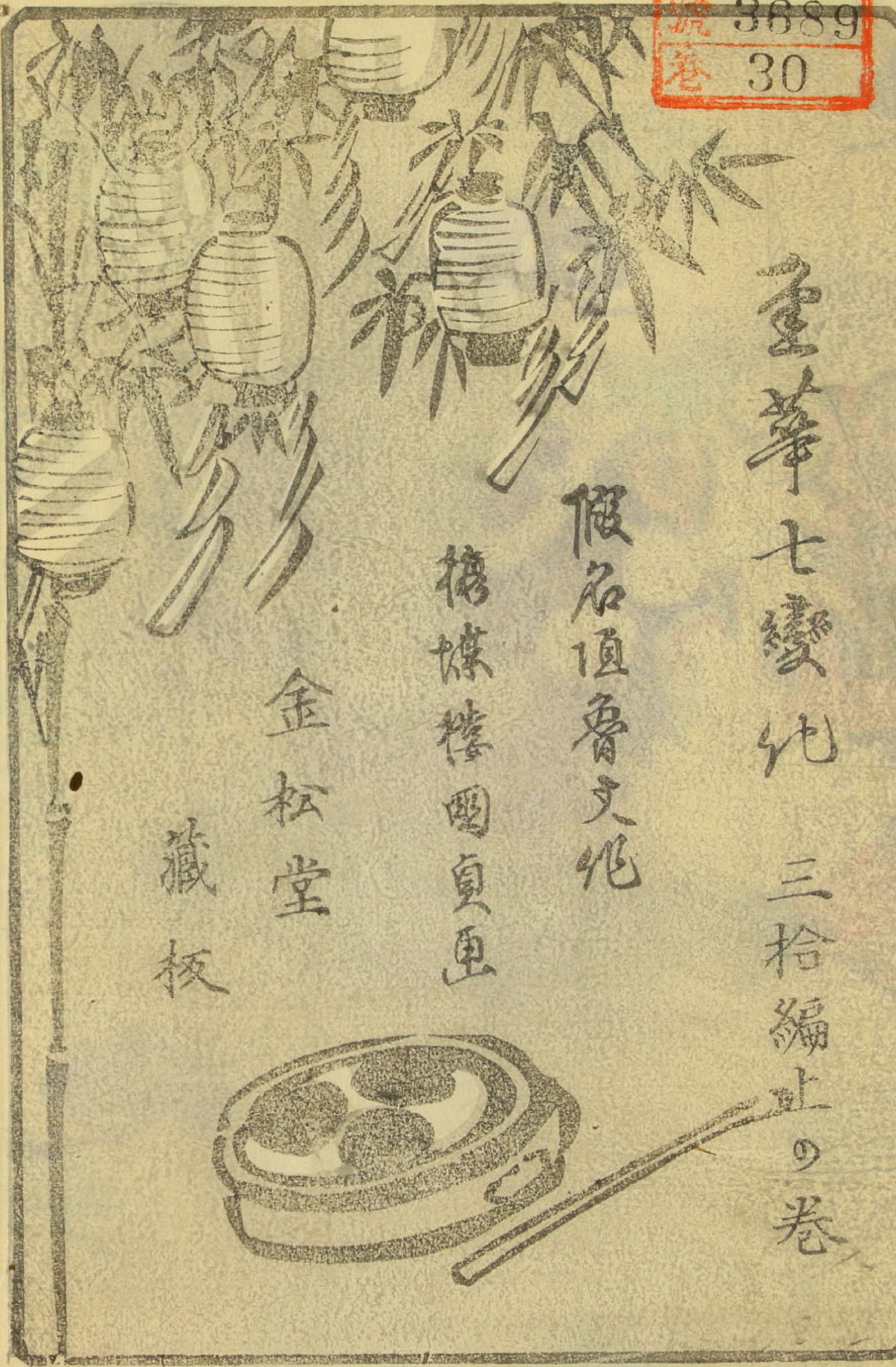


金華七

金松堂梓

へ13
3689
30

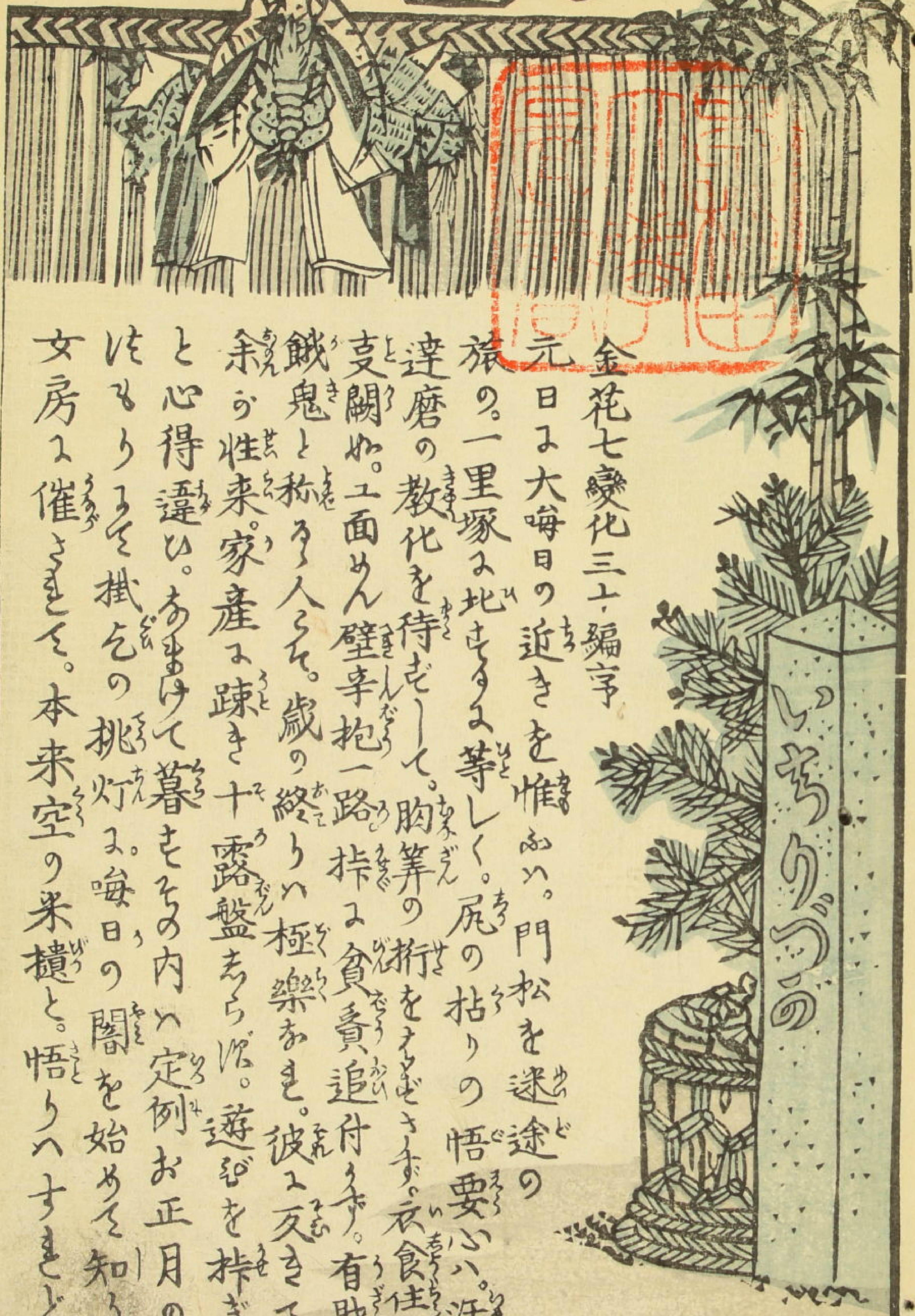
門號 へ13 3689
巻 30



金華七變化 三拾編上の巻

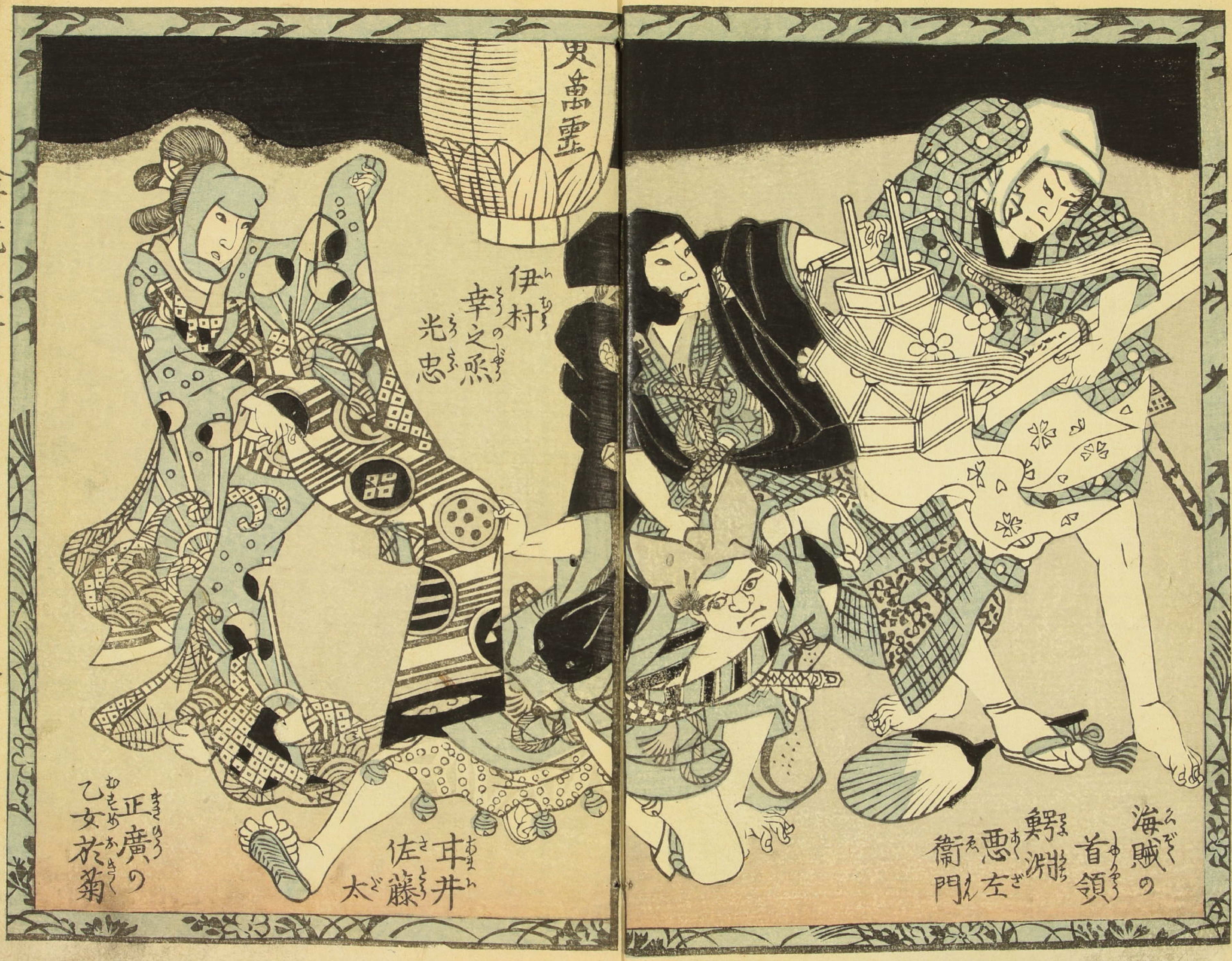
假名垣魯文作
楊洲楼周重画

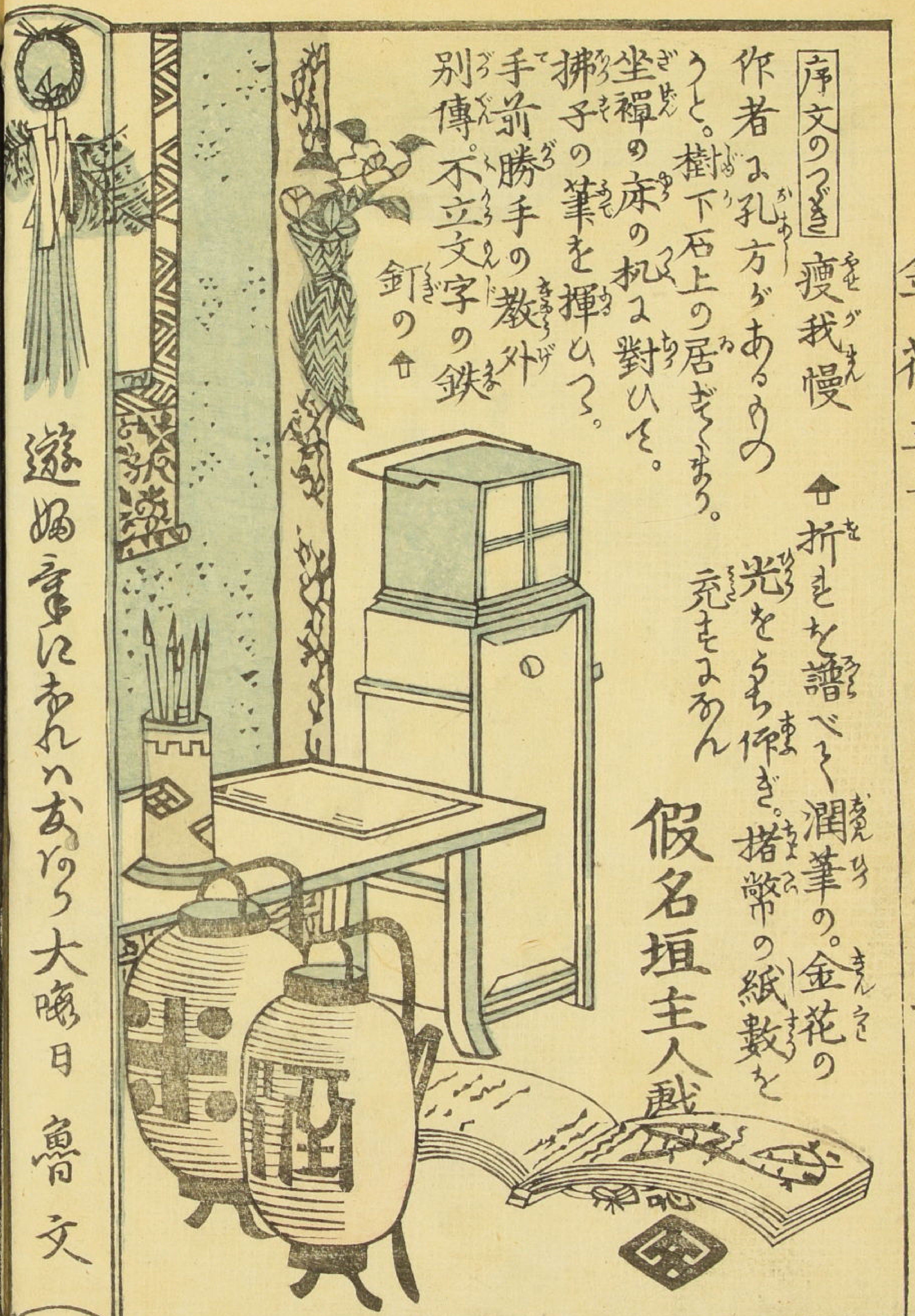
金松堂
藏板



金花七變化三十・編字

元日ハ大晦日の近きを惟へハ。門松を迷途の旅の。一里塚に比するに等しく。屍の枯りの悟要心ハ。活達磨の教化を待ずして。胸算の術を[illegible]ず。衣食住に支闕ぬ。工面めん壁辛抱一路。挊に貧乏追付かず。有財餓鬼と称る人にて。歳の終りハ極樂なれど。彼に反きて余が性来。家産に疎き十露盤ちらば。遊びを挊ぎと心得違ひ。あかまけて暮をその内ハ定例お正月のはもりにて挊乞の挑灯に。晦日の闇を始めて知る。女房に催されて。本来空の米櫝と。悟りハすれど


萬霊
海賊（かいぞく）の首領（しゆりやう）鰐淵（わにぶち）悪左衛門（あくざゑもん）
伊村（いむら）幸之烝（かうのぜう）光忠（みつたゞ）
甘井（あまい）佐藤太（さとうた）
正廣（まさひろ）の乙女（おとめ）於菊（おきく）



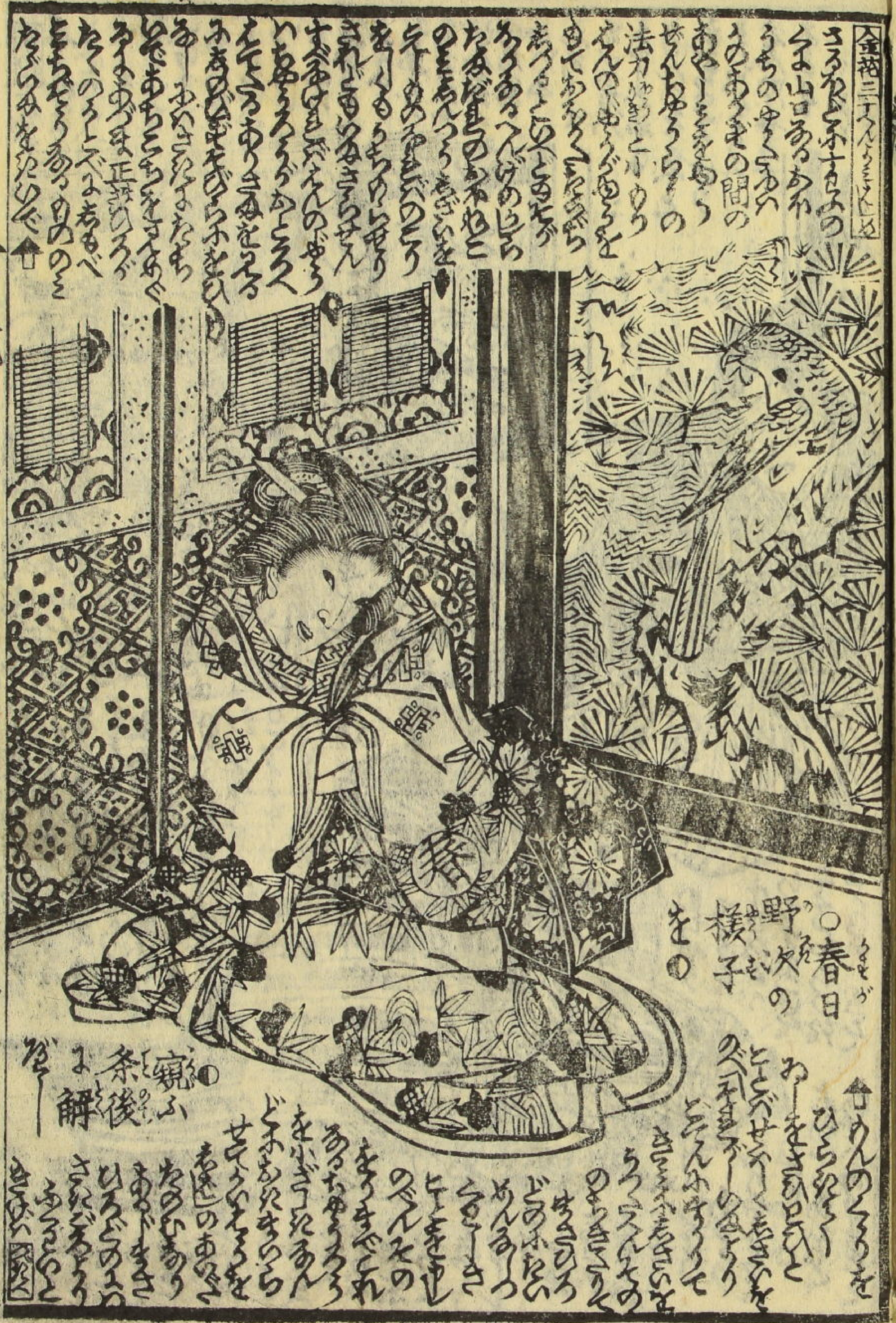
序文のつゞき

痩我慢(やせがまん)作者は孔方(かね)があるりのうと。樹下石上の居ぎくまう。坐禅の床の机に對ひて。拂子の筆を揮ひつゝ。手前勝手の教外別傳。不立文字の鉄釘の⇧

⇧折をも譜べて潤筆の。金花の光をうち仰ぎ。楮幣の紙數を充をみるん

假名垣主人戯

遊媚亭にあれハおなつ大晦日　魯文



金花三十[illegible]

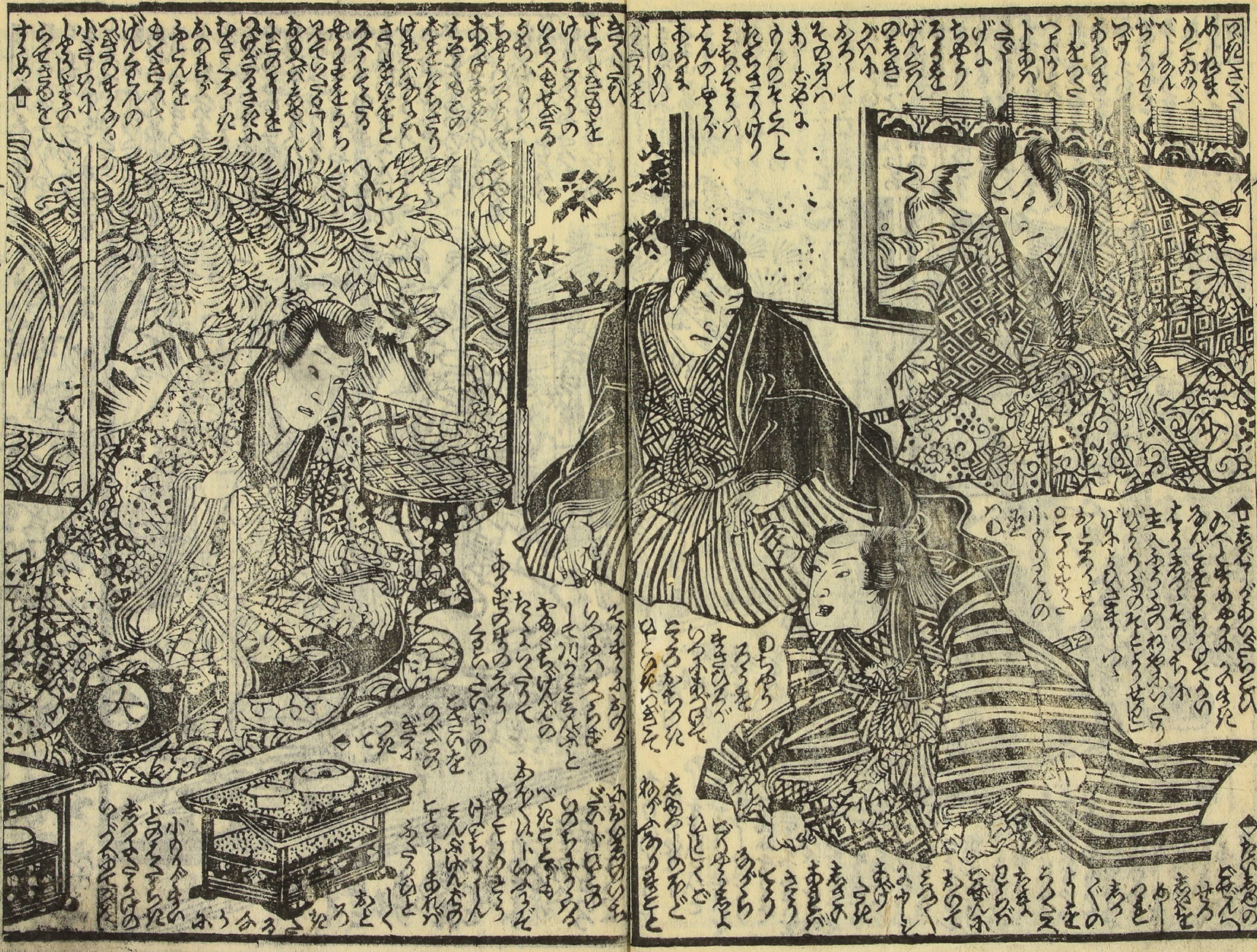
さるほど[illegible]山[illegible]うちの[illegible]その間のおや[illegible]の法力とい[illegible]

[illegible]

○春日野次の様子をの

⇧りんのくるりを[illegible]

○窺ふ条後解まで



さぐ〳〵めしねまちうとおの人べしきんがうらせずつげしあらまほしをつくつよひしとあへ言しげはちまうろうをげんらんのまきぐへふおろしてその身へわしがやはうんのそえとたちきうけりとちぞろ〳〵えんの中があるましのめふくろをきく言ひぼうよきるをけしからのいろへもせざるうまつ、のりへちゆうろうをあずけきのにえそくもこのおそはちさりけふいあてこれさうまれをとうえぐくろやうまをしうちえそいてるてくおかみえきいこのりをいげぞうさんにむさくろしれかのきがふとんをもてきろげんさんのつぼねのまつなる小ぎつねにしゆにゃのらせきるをすゝめ⇧

⇧おそいがあのぐろとののへしきやうふみまれゑんどきをうけそうのちうおろしてそのうちに主人ふろうのわやふくろゆうらうのそとろせばげふとるのかまへつくおしまいけせり○こうしやくなく小めのさんの涯へ◐

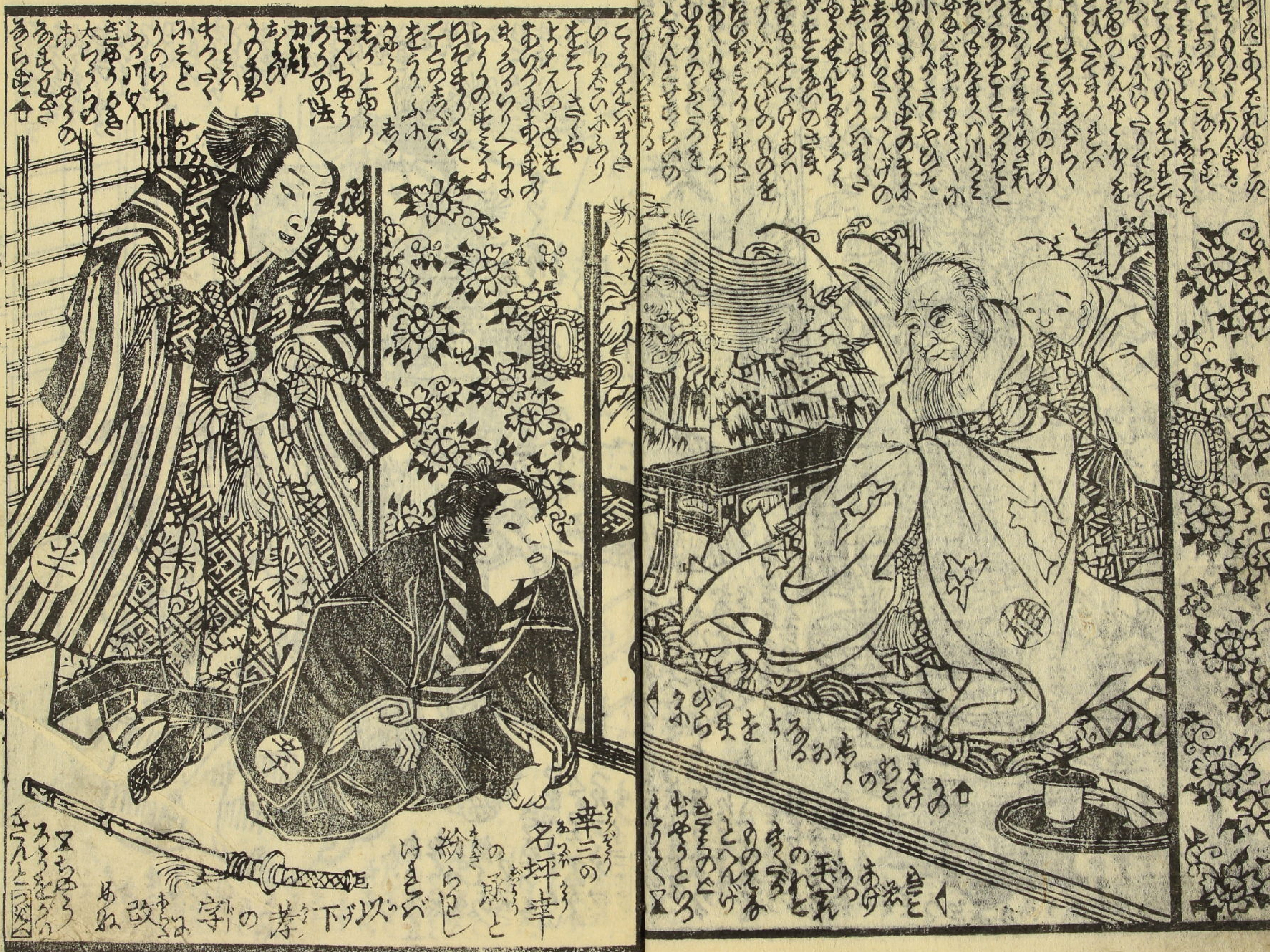
◐ちゆうろうをきさひろぐいろふまつけてとうおちつれはなのひきて

◆たいまのおぼえへせろまにもせめつまりおろくのよしをちうくえまなひとらいごらんにおのてころくみやこしまいきまのまいさうとうあぐらぐりゆきひとくでまゑの十一のそでねず合うまさと

そうでふかのいろへ入らせしそ小ぶんをやあくちかげんのたくらくろてあやぶめのえうくるいいちのこきさいをのぞめのぎりにつえて◆

みかもなのいらぜいとなどのいのちようろべんともあたくはいかなぞゆえのきうけもちろしんこんぶげんだのとこ中へあれがふくろとしくあとろえる合うふ

小めのさのどのくくられまつさまけのひどつくぼそ



（つゞき）あつぱれ [illegible]

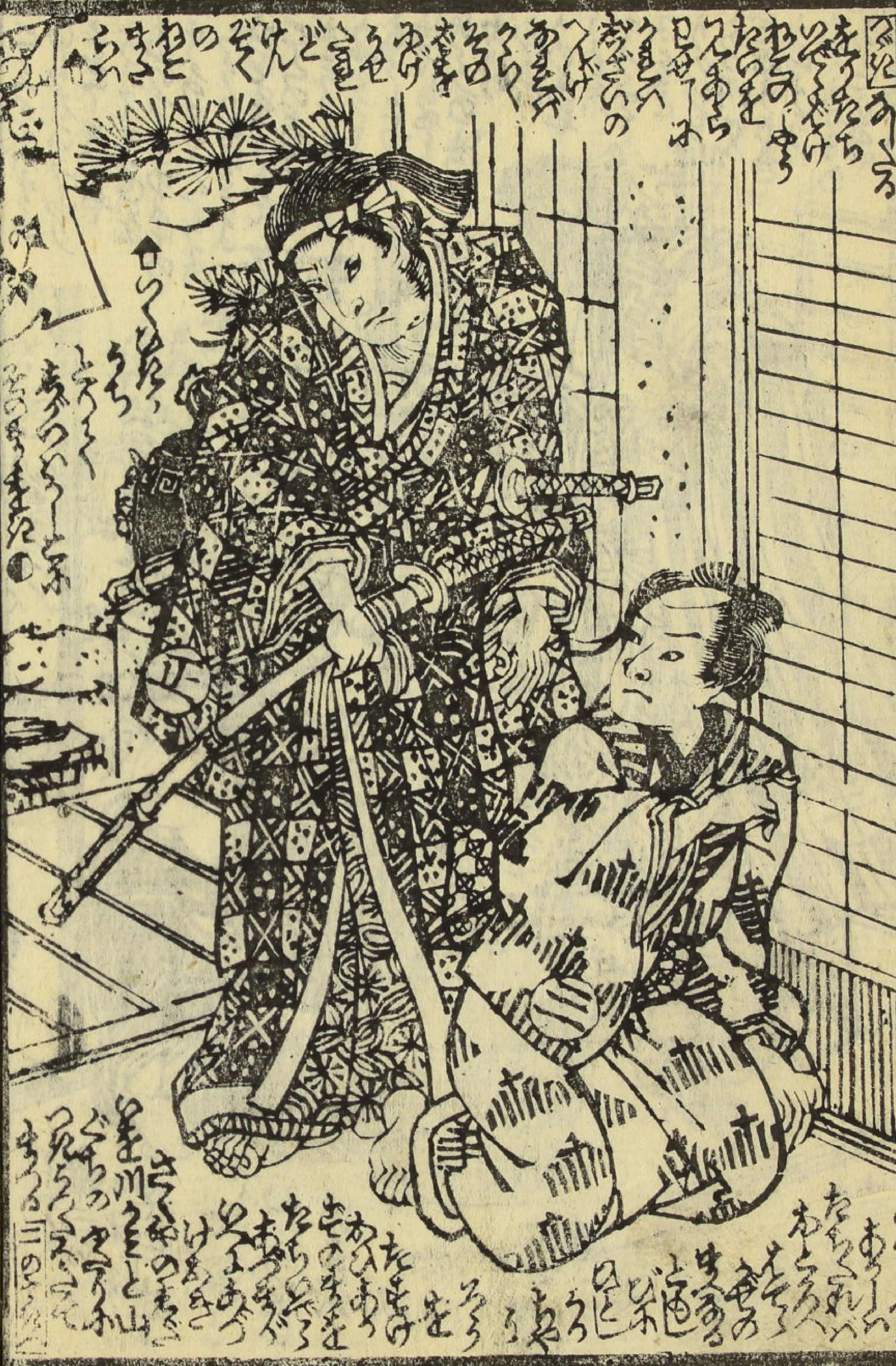
[illegible]

あみ [illegible] の [illegible] ⇧

[illegible]

幸三（かうざう）の名坪幸（なつぼかう）の [illegible] と紛（まぎ）らはしけれども以下（いげ）孝（かう）の字（じ）は改（あらた）めね

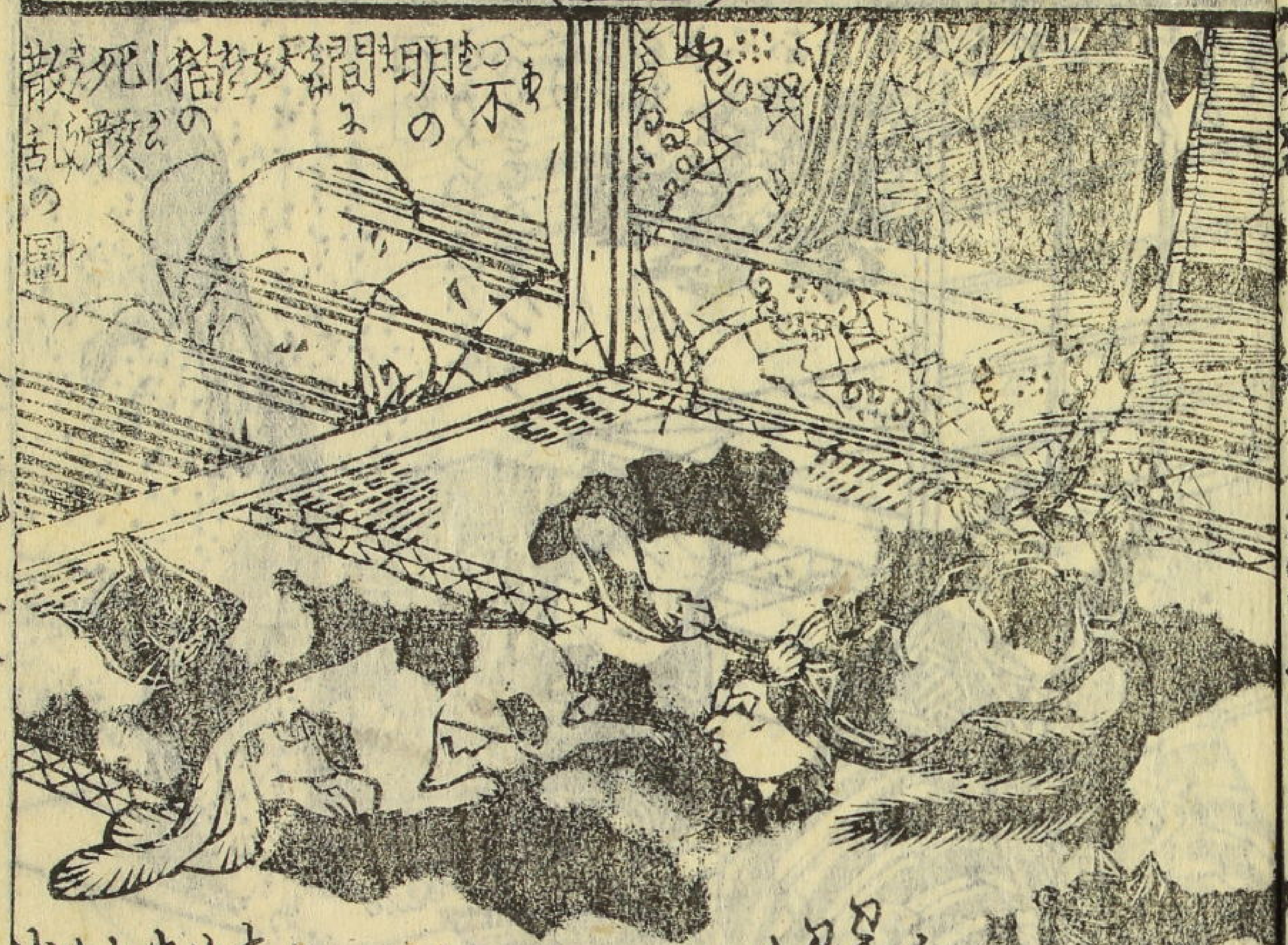
又ちゆう [illegible] 一つゞく



つぶね あゝこれ [illegible] のかくのそらけ [illegible] の中ゆう [illegible] たらをもつ えんまら [illegible] は [illegible] の [illegible] どんぞくの [illegible]

[illegible]

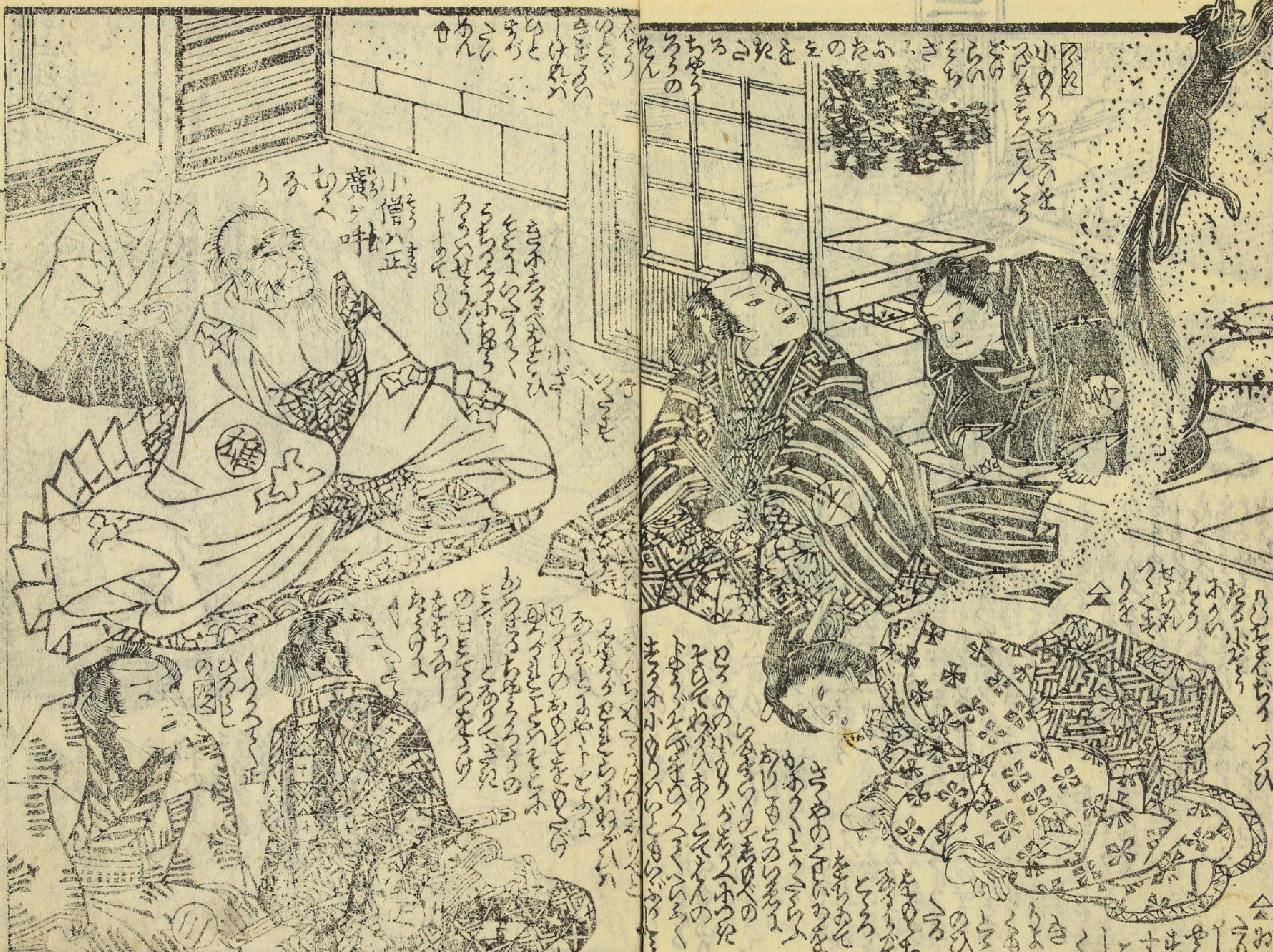
[illegible] 星川 [illegible] と山ぐちの [illegible] 三のつゞき



不明の切間ニ妖女を指し死 [illegible] 散乱の図

一のつゞき [illegible] ○ [illegible] 行法 [illegible] 玉の [illegible] 母子の [illegible] 星川 [illegible] 山ぐちの [illegible]

つゞく



[illegible]

ちゅうろうの

[illegible]

[illegible]

小僧八正

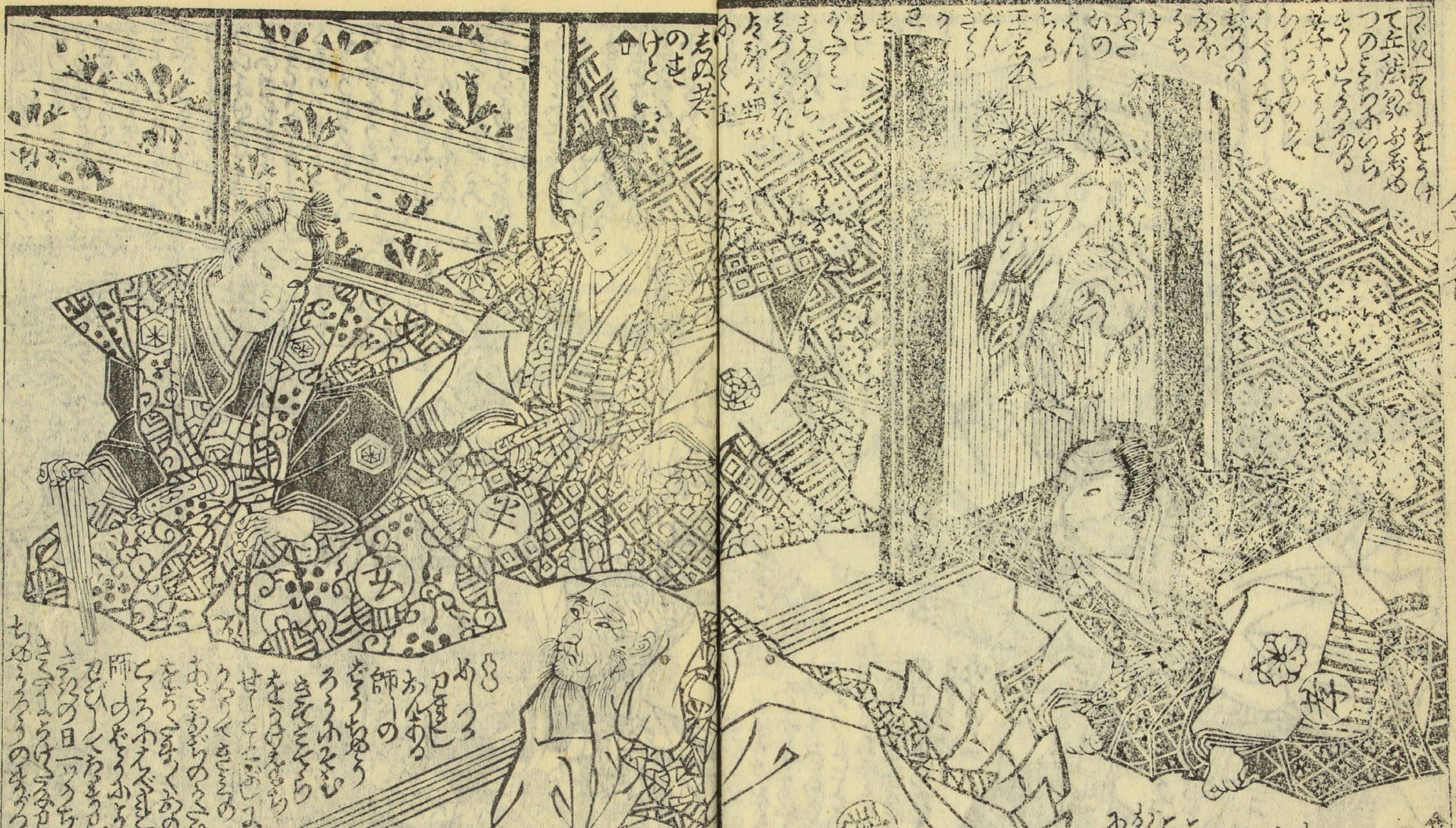
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

〔つゞき〕おもひまどひけ
て丘藤刑部がわら
つのことつたへらる
なぐしてあるみの
琴ぞうそでうと
ひさごのゐつて
くべうちやの
おさつの
おれ
らもち
け
ふぐさ
いの
くん
ちよう
玉を丸
がん
さう
う
さ
まき
まがてこ
きとめのち
そうのうちた
ちぬ所が蝶
あしく玉

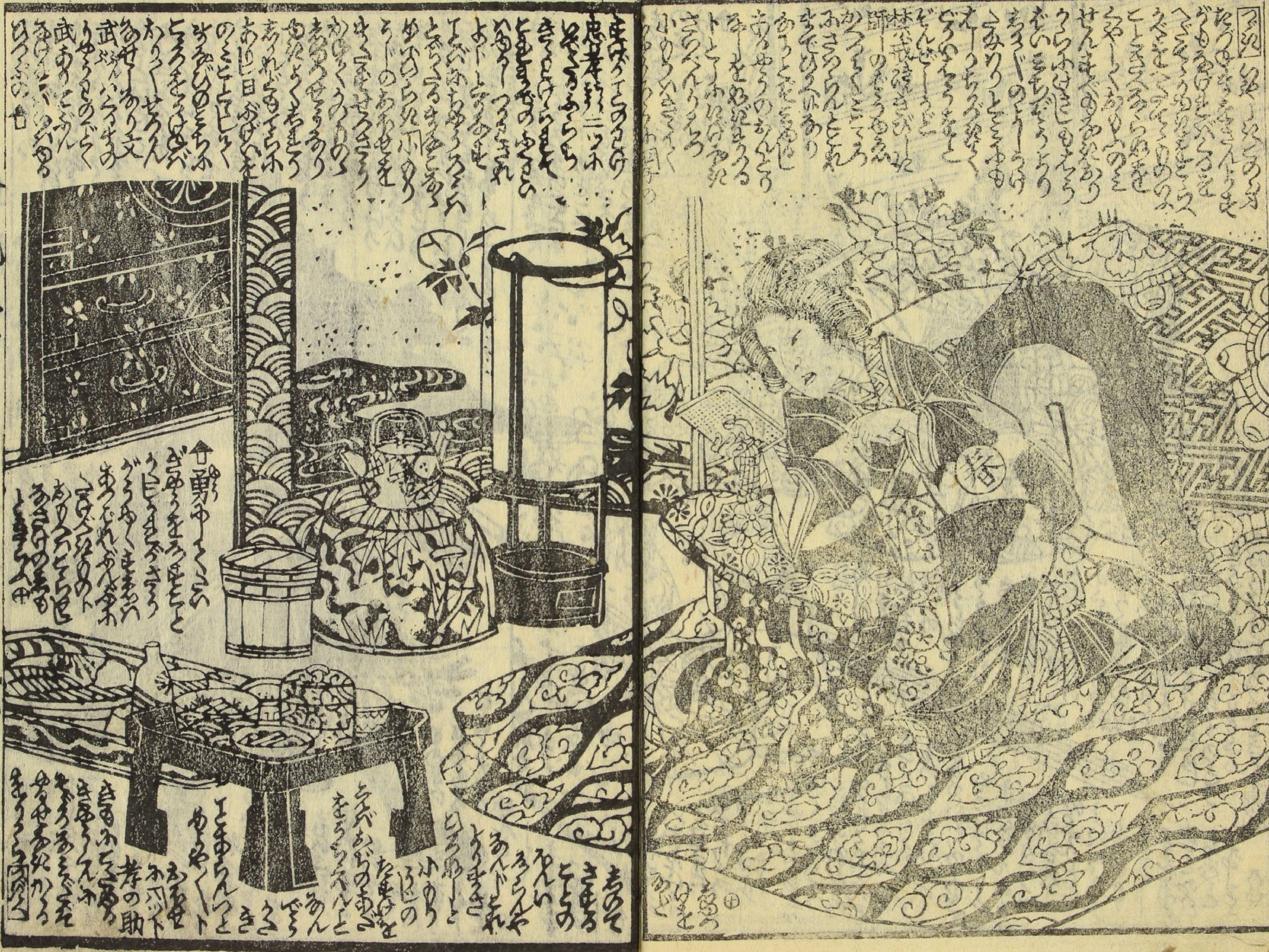


仝よべつりのきゝところ
みんらしよ一めりし
ゆるべあがらうさ
たろうの姿がまゝ
まもりかあうく
みこへつてさうあり
めのそうのしれわく
おちびたてふ江おや
子のおんさゝくをそ
こまゆうけつげりきし
とある身のあわぢ
彦子とふ江文子に
あてあるまじきれの
名のくつあ
あだのあざ
これら
をうらく
のうろう
あさら
まさせ
ゑれよ
よめぐれ

られとも
へやたけみ
たまとしを
どまちの
香うらせぬ
小児や
やみそうでかなり
ねくせぞさえ
きらぬ身の
らくぞうあざそ
うらみんやさう
きとの身のめり
あめあちなぞらく
あるあきらのあざ
そのまゝえしく
まだきさんと
母あとればゑ
しひるおえ
にくうときを
しれところさ
ふりあそし
ところー
子をあき
まこ巳
ちとと
みすく

もめつろ刀匠かわめ
師の
ぎうちあう
ろうわそり
きえをそら
をうけえきぎり
せしたぶしは
うそでききの
あさあがりのうくれ
をようさまくあの日
とろろわえきしべ
師のやうふよりて
かどいくたまのまき巳
されの日一ッうちてうのよう
きてみうけるみせりくる
ちゆうろうのおがつきき文亭〔抄く〕

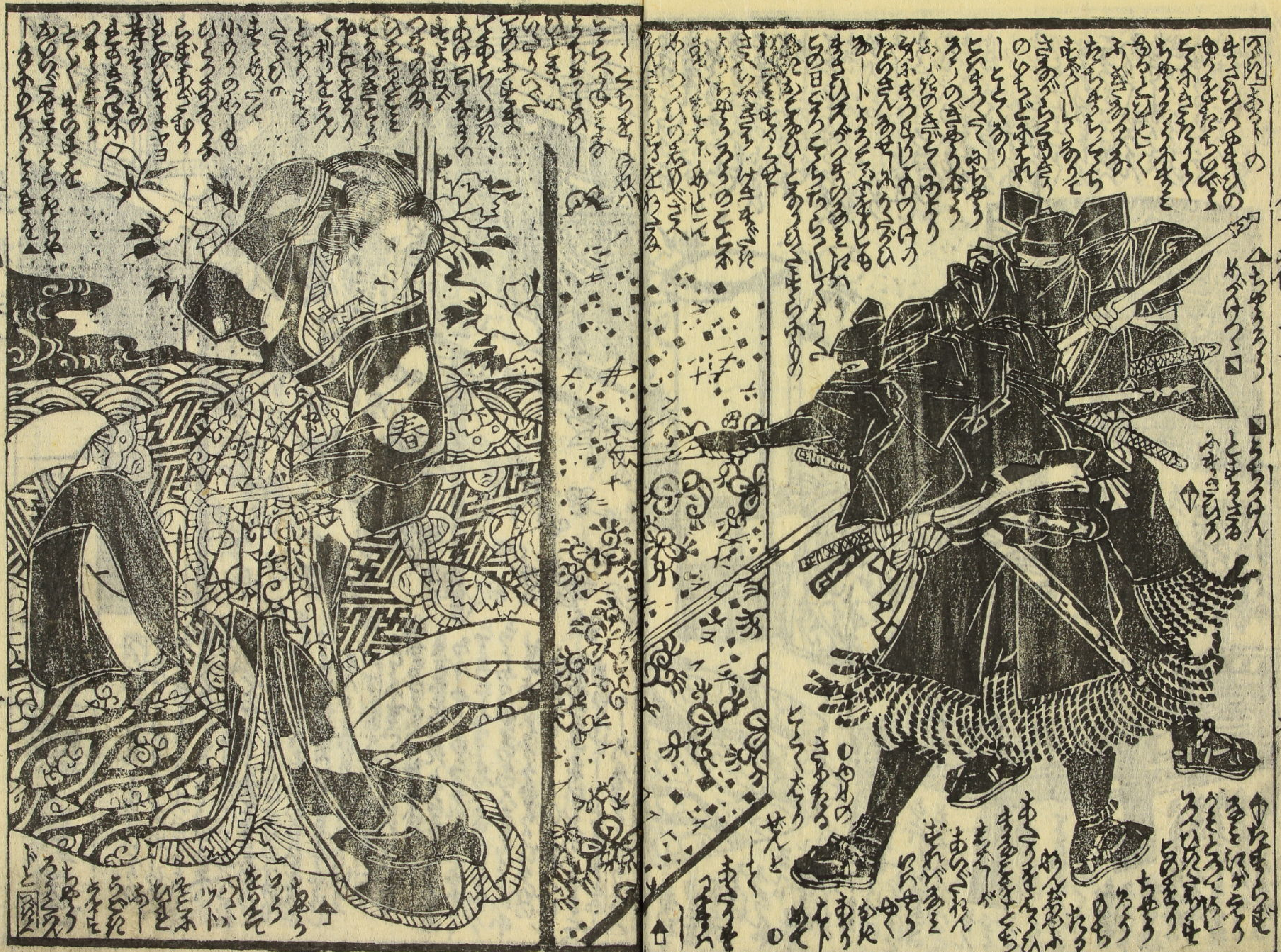
つゞき 然るにその又
[illegible]
[illegible]
[illegible]
くやしく[illegible]
せんまで[illegible]あり
[illegible]
[illegible]
あまりのとおりつけ
こ[illegible]とも
[illegible]
ぞんぜし[illegible]
林[illegible]讀[illegible]
師[illegible]
かく[illegible]
[illegible]
まぞ[illegible]あり
あうとぞ[illegible]
[illegible]
[illegible]
ト[illegible]
さうへんりうろ
小[illegible]
[illegible]の



[illegible]
忠孝[illegible]二ツに
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
より上[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]日[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]文
武[illegible]
[illegible]
武[illegible]
[illegible]
[illegible]

今勇ゆうやくらい
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
孝の助
[illegible]

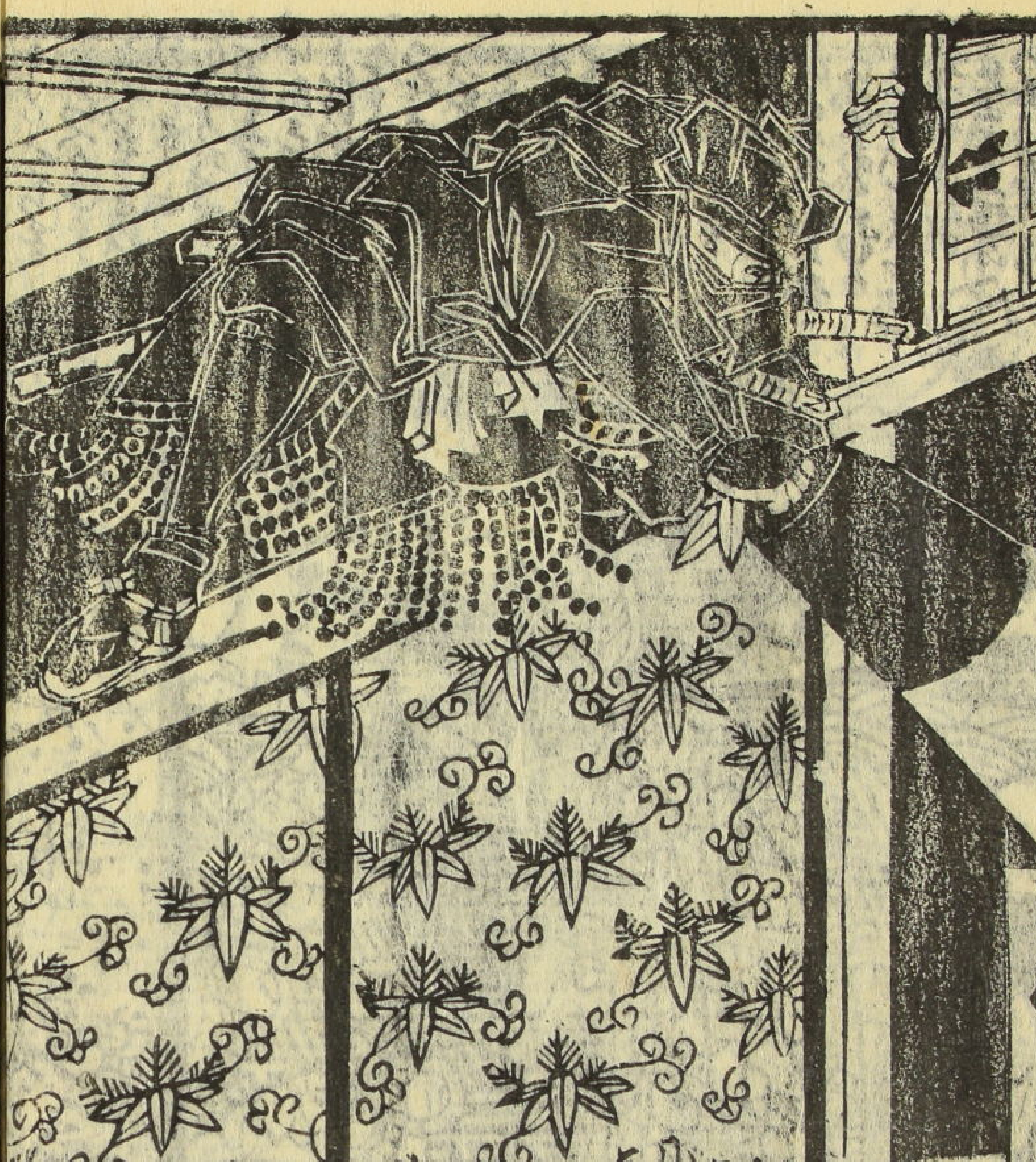


[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]



魯文作 國貞画

つゞき うちうちとゞめからうよれ ましく はきゝつろめしゆゑ おこゝろのうちくみつけまじきと氣ならず たてゝもいろ/\ かしこまらひ さんせう事の一とじ しかれども ところそおらうこゝをすてさろう かのうちへたゞしたて 孝のすけの きもちなうもおかねの身の上悲 つゝまるの法力 終まんも一心 あんじ 此のしめの下 にけり

一丁おもてまへよりのつゞき

○ところおさて うまれのからうだ 山おちゞんそがかゝぶらうめ きつゞきされとらいくそのむすめの かんじもゝうされしおんとあふく とうきつしめつものそあがり ちゝおろ川辺のさんをまいりあれ せそびんちがうらてうらの おさむをふりゝはさえさばけん おさつかてもそのみのさもとへ おものくせ うどもとまら ちしろめて

三のおもてへ

浅草刈十社縁起　初編 種彦作　追々出板 國貞画

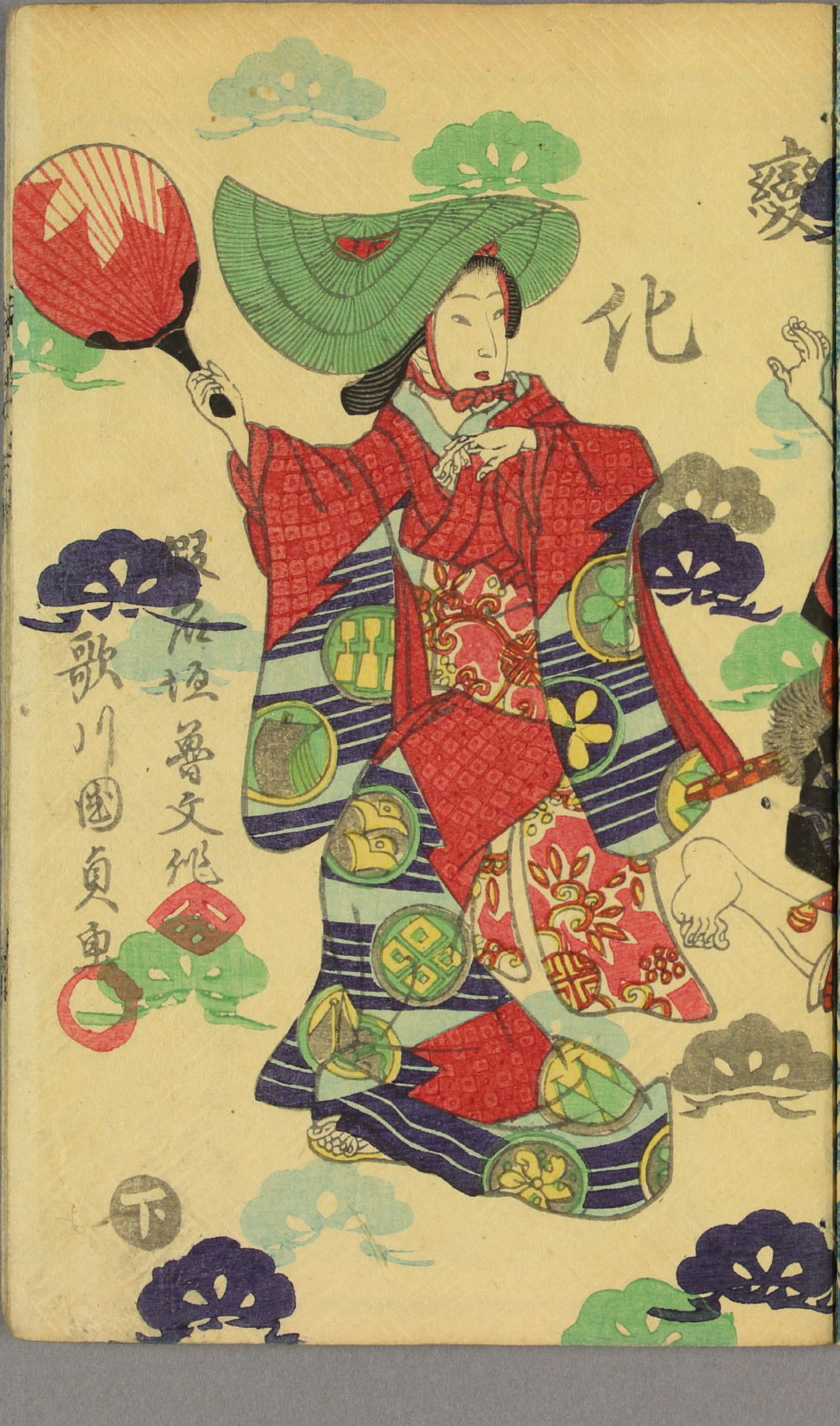
水鏡山鳥奇談　四編 秀賀作　五編 國周画

蓬莱嶋臺延壽盃 傀儡師　三編 魯文作　四編 國綱画

花の御所九重日記　初編 秀賀作　追々出版 國貞画

本製丁子油
日本橋通十軒店
繪双紙
武蔵屋勝之助
此丁子の油は和漢にめづらしき
薬にして第一頭痛ねつ痛たちまち愈る
事かぎりなし 延寿一切武家様御女
中様方肝要の薬なり 懐中すべし
さればこのたび新に工夫いたし
細工あり 委くは能書に記す

文
地本雙紙問屋 金松堂
横山町三丁目
辻岡屋文助梓


變
化
假名垣魯文作
歌川國貞畫
下

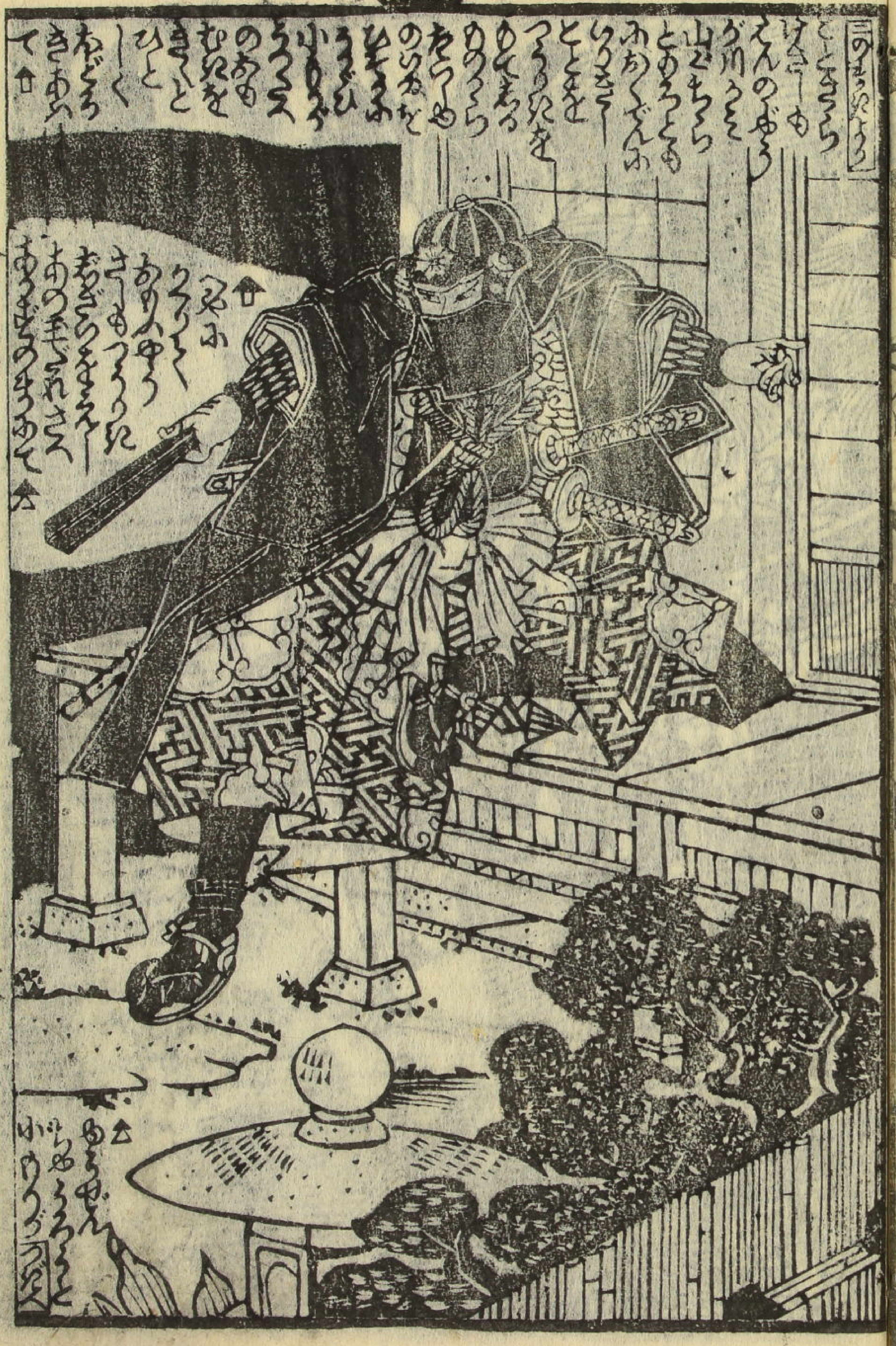
金華七變化

三十下の巻

假名垣魯文作
梅蝶樓國貞画

金松堂梓

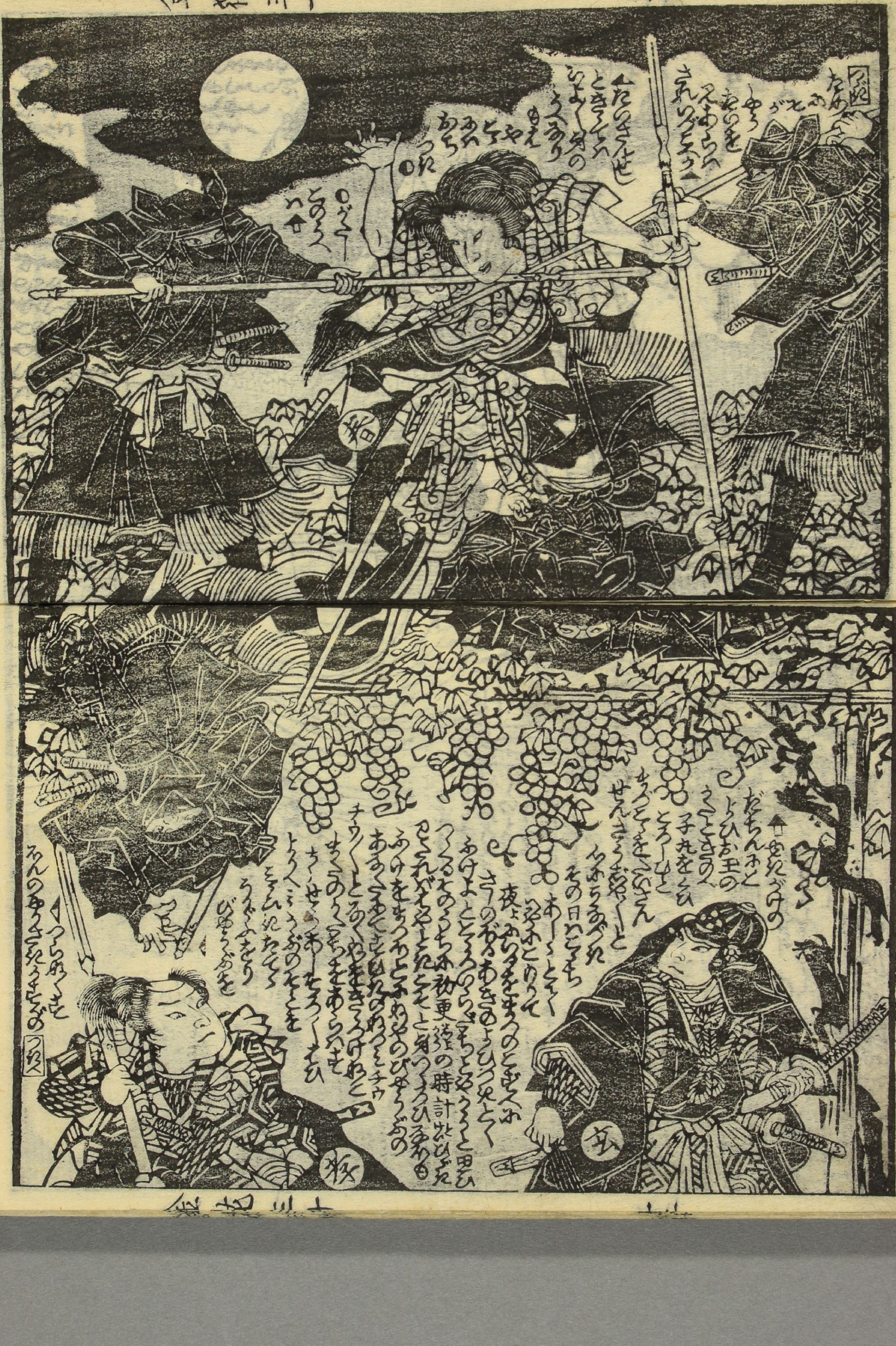
三



三のつゞきより　とゞまらう　けんごしも　えんのがうり　ぐ川うそ　山ぞちらら　とあうとも　ふおくでんふ　りうきう　とゝをを　つうりれを　もそえる　かのつら　おつゝや　ののなど　ぞそろふ　うらひ　小ものが　らうくえ　のおも　むれを　きくと　ひと　しく　わどろ　きあへ　て⇧

⇧ゑふ　くりく　かりいゆう　さつもつうれ　おぎらのまゝ　あの手ぶれさへ　まうぎの手つめて⇧

⇧ゆきゑん　はらぬろうちと　かゆりうづ　うらへ



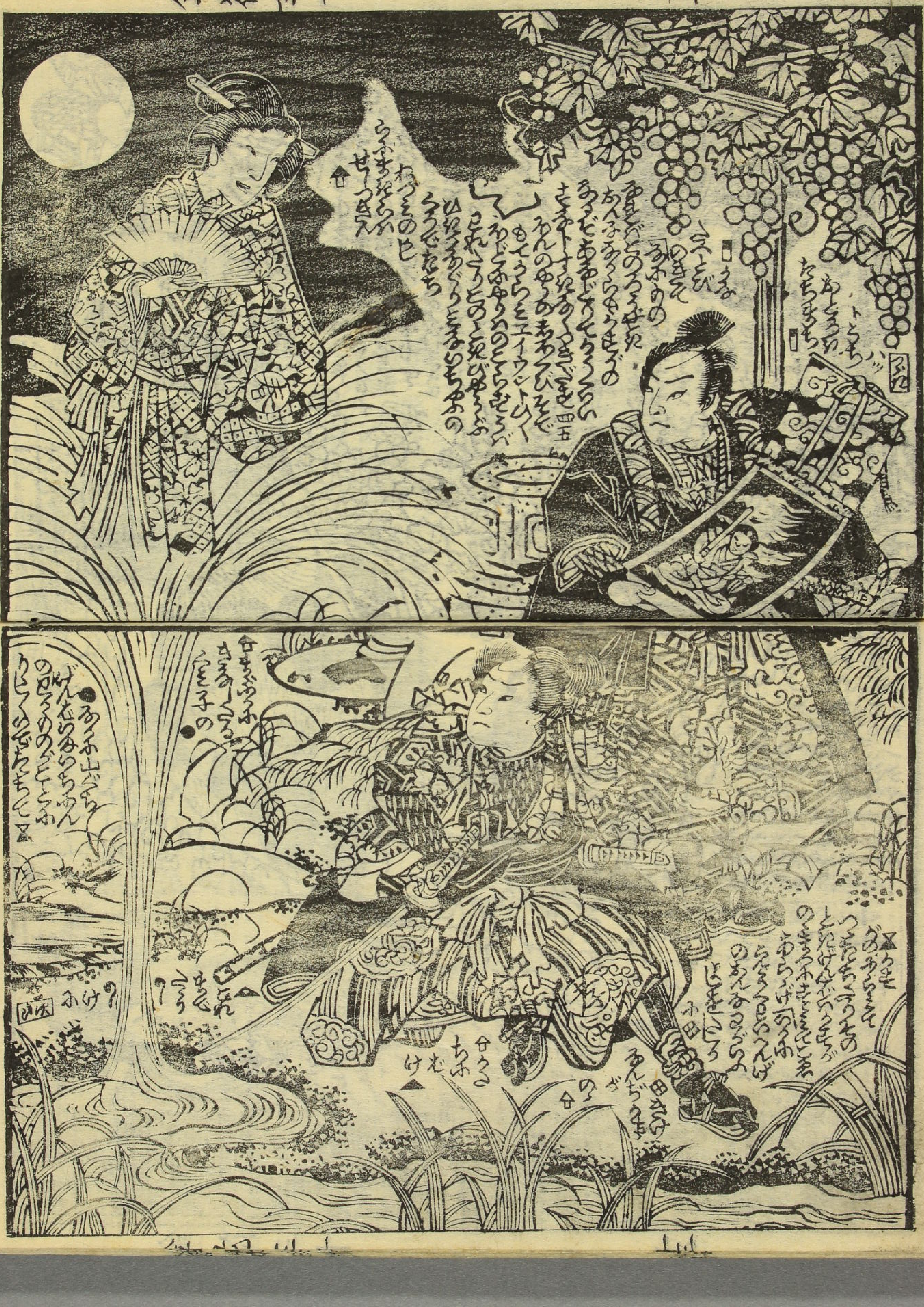
つる たかせふそが ゆう 狐のを えあらへ されりずくに▲

▲たのきんせし ときゝにへ ひよし身の うくあり 目え やと みれ あち つれ●

●ぞくー とのく れ▲

▲安兵衛のだちんおとらひ玉のうくさの子丸をうばとろ〳〵とちづくをさぐさんせんきちおぢ〳〵とかふち了べれその日ハとうちあら〳〵とくちからとりて夜ハふちゝまつのとき〳〵にさうのすがあきうのよひつゑとくふけよとところのちきちもとからうと思ひつくるそのうちに初更後の時計がひゞきかされぞちと見えと身つまひあかもふけをまつれどもめやのびやうぶのあうくさきとか見えねつゝチウ〳〵とあくやまうけぬくちくうあくをうそあらへきそちゝせゝ申すゝおつ〳〵まひとく〳〵うぶのそこをとさんみちてくうらふきりびやうぶを▲つらぬくさとろんの身さ見えはぜの

つるぎ



ハツ
トらち
おとうか
たちまち

うな
ゑーとび
のきえ
すふのの

あまどのつまなれ
かんなあらせうきずの
あまだあまどうそくくらい
までトすれるくちべきを四五
みんのゆかあわびえぞ
もてうらとエイウントひく
わどふゆりのとらなどに
これうりとのとみびやゆが
ひれそのぐうとまうちやの
うぞなち
わつとの色
らかまなくれ
せつきん

おまぶかふ
きゑくる
皇子の

あかふ山ぶち
げんむらあらちやん
のどうめのぶとらふ
りとくらぶちもち

これ
まう
り

ふけり

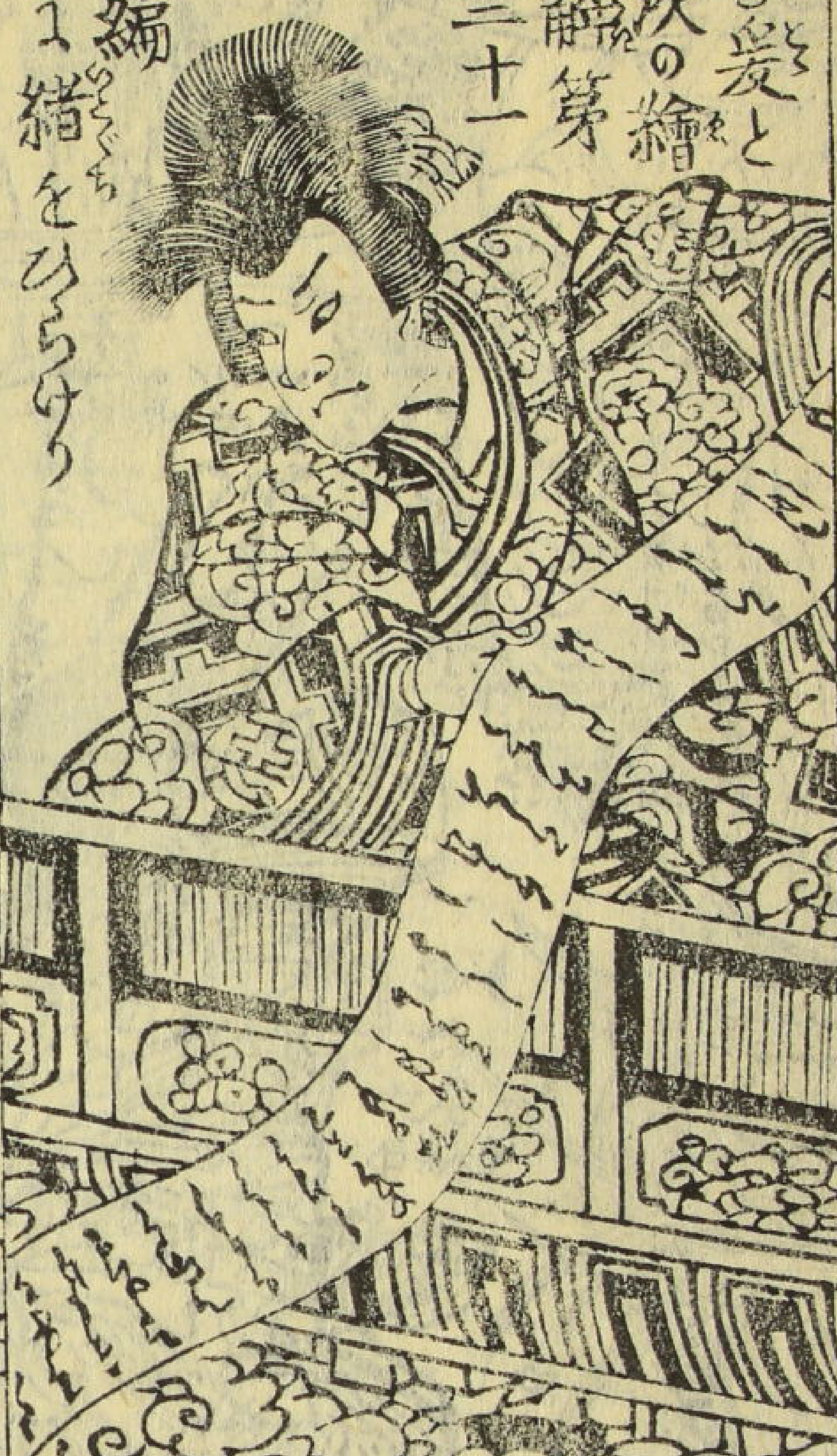
うきを
ガあらゑて
つかちくうえの
とおげんぶらうきちず
のきうかさまにとえ
あらげすうは
らえくるらえげ
のあんなのぶらく
よまきたう

小田

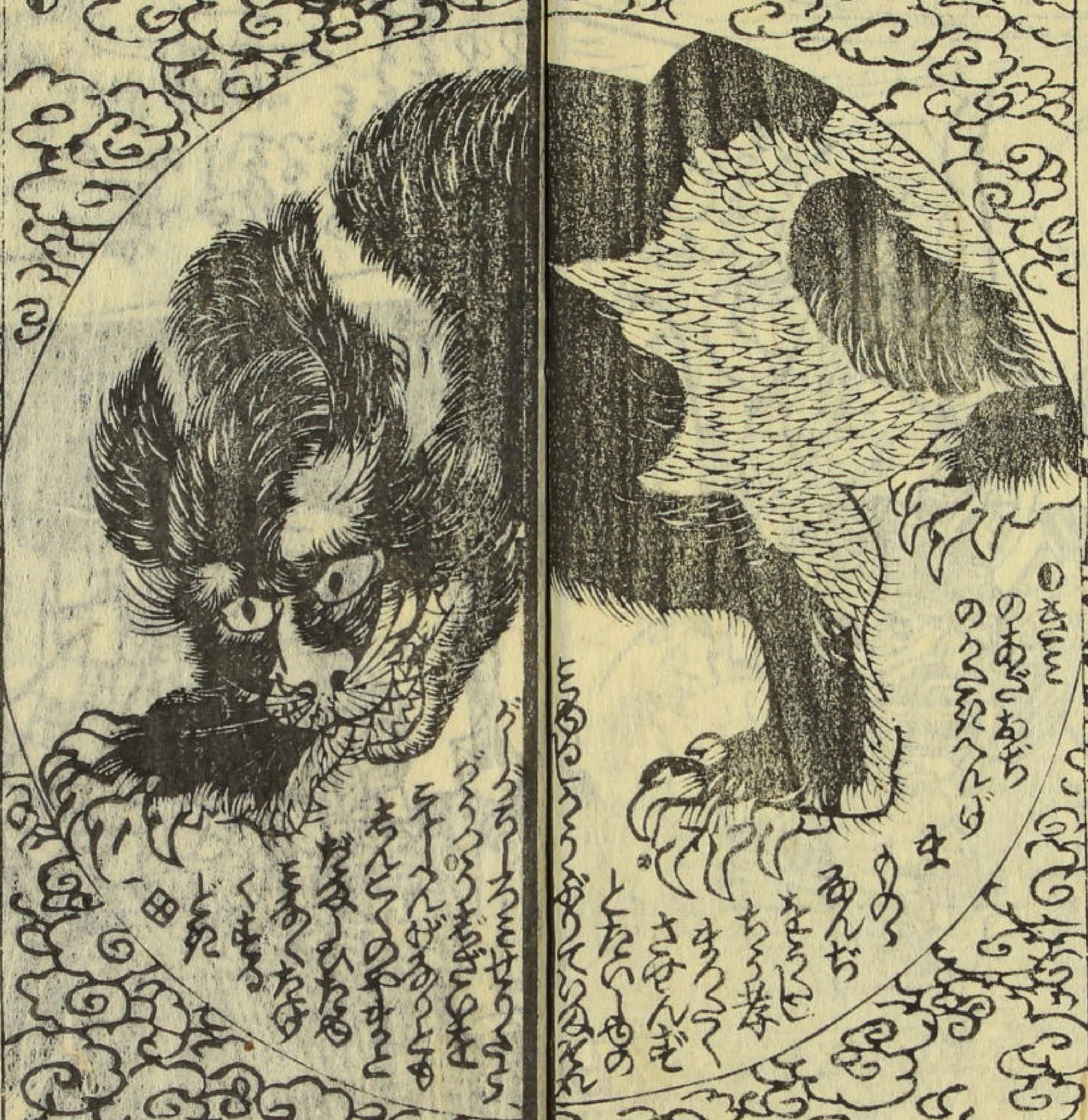
田きけ
さんぢうちや
が
の

かるちむけ

○爰と次の繪解第三十一編
ユ緒をひらけり



⇧たくとのぞんげんはひらうふわんをーしうの水江ら妃太らうぐをひおーそ玉藻なつて



◐きさきのあざおぢのくらゐへんげ　生ものゝあんぢきうにち孝まうくてさかんぎとたいものとあるこうとおりているぞん

つゞきあぐせーやうまなはそのあらぐさりあれどもかれのをしやくら兵人のねんりきにうらみでつろくとてあざむきえんさきどろうんちがらりりとおとら先ーおりふゑさうこうの名うてをさたそめのうらそをさせうとをたの名ゆふうくみたのらはんとおりみうひるくまいものんみなおろう上らりてあつーをろーあひとれまでえんせんせてとぞとれふつ目たろうろうののとをそるんおちらぐ⇧

⊞たちまきうちふあるんぢらうきちきうとをえんイデくせうくらいあらわれ千年のそをまさけよトつゆきさをまべうまぎの大あわぐそちび名ら絶うくらくとうち名ちらひつと[illegible]あくるあぐ紀山ぐそちがんぜ身ふあだいるれへば

ぐーうちーうきせりさうぐうさうきざしをを
ねーへんがうつしとも
あんくのやすまと
おまーひたる
ますくたす
くもる
とき⊞

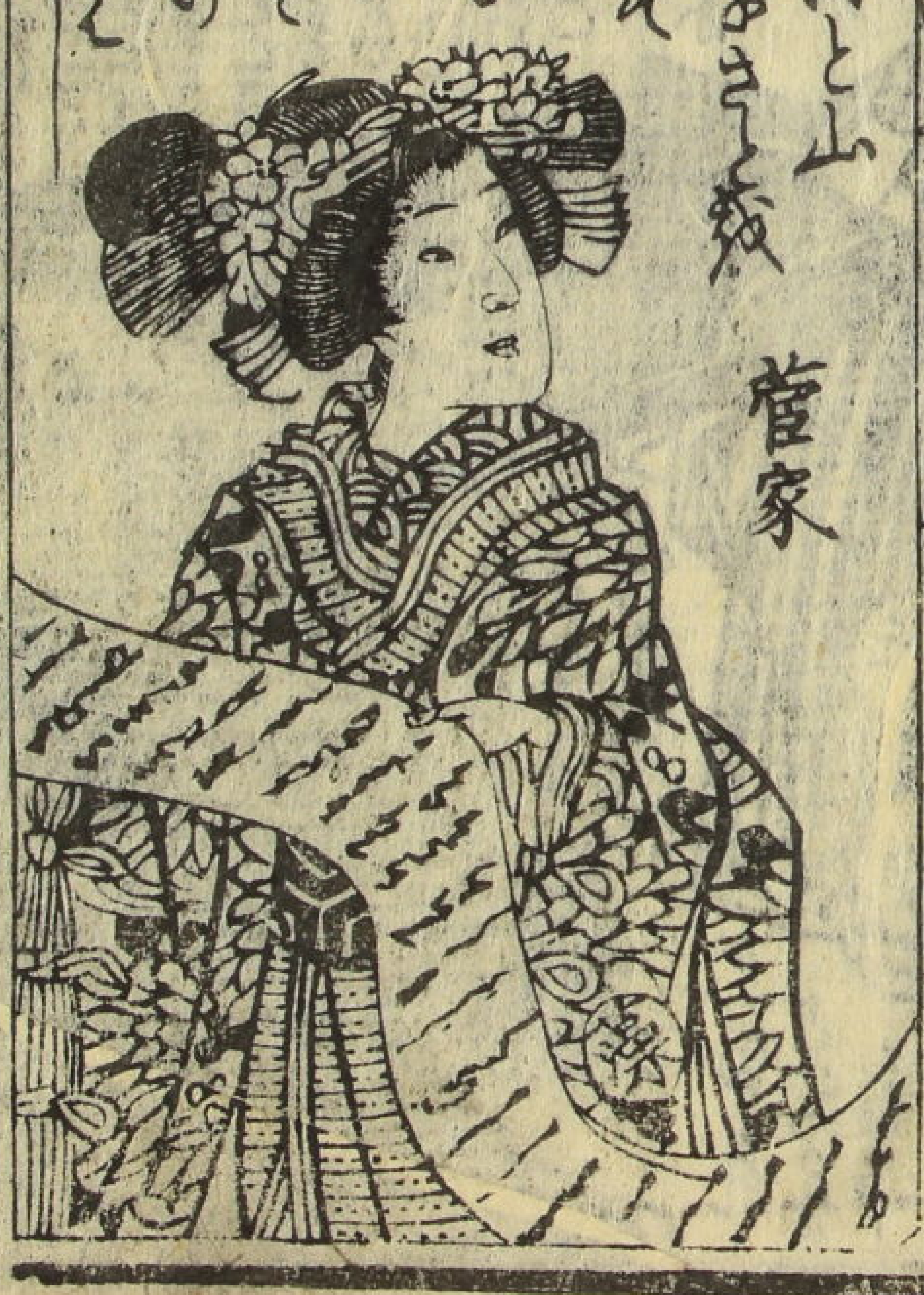
よおくりさくさきの日と一おもえおちむきらいをとらへてうふくとせうりに名りのふえおち名めうまぎゑそ一めぶんふさーまきさいのなられ家をへんげろんどくらーゑのゑ㊂ふ⧗

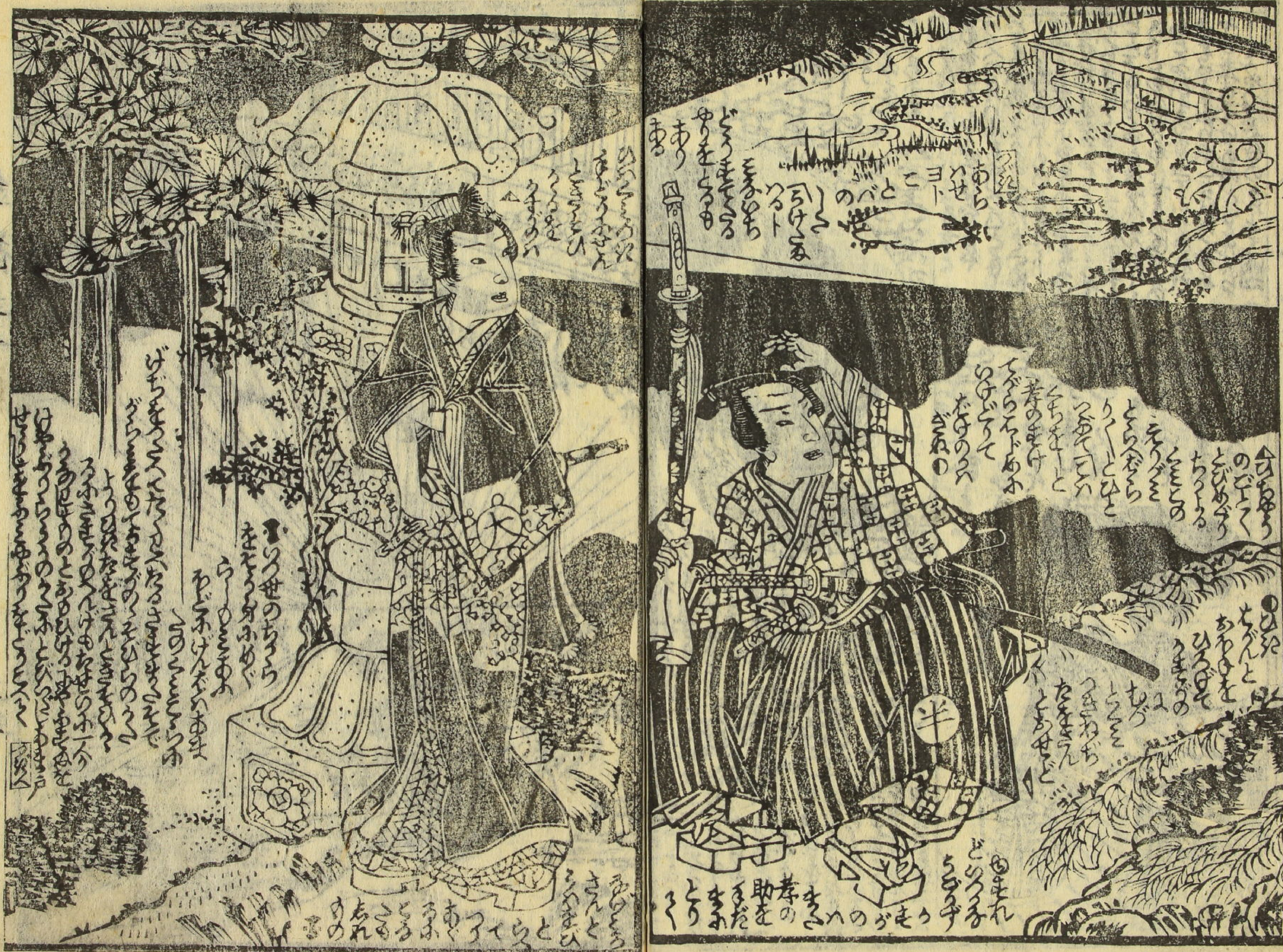
孝の助とよろぶろうきのおりとびたらけめしつぎさまーとそこうりのまちよめふ◐

又さんげんあーたうとうる女とあふぶとりらうぜひせうこゝろやつくの身ハあるへつのはしとをどろへあくてくろみでれうくらしとよりあって日本のめのまゝせんトびやうぶをたすお身がきへるせべげんぞうへうみやもつめようて司うちきうにくもえうそうのまえるぬとどやらうゑらべゆんげんらしくつろくどあんぢぶあおせうつゆじーのあとそひまでもきさまうりくされバのとかるうさのぬとよひのてぐめヤヲ孝のすけのめどもをゆげちーてらうつぞぞけのうへとて 次へ

海と山
子さし哉
管家

魚ぐて
まむ
人も
わのゝ
うらそ
文字の
かけし





あらいせ ヨト こと べの しく 同けろ かるト まゐる どうまそくる 申をとる者 あり まる

今はやうのごとく とびめぐり ちらつる くもらの えりごと とらへならり ひと つかて 云ひ くちびると 孝の助け てがらそうじや のけどうて たけのふ ござね●

●それ ちらんと あらしを ひろげて うまぐの 〓 むぐ とらえ つきわち たまさん とまぜど

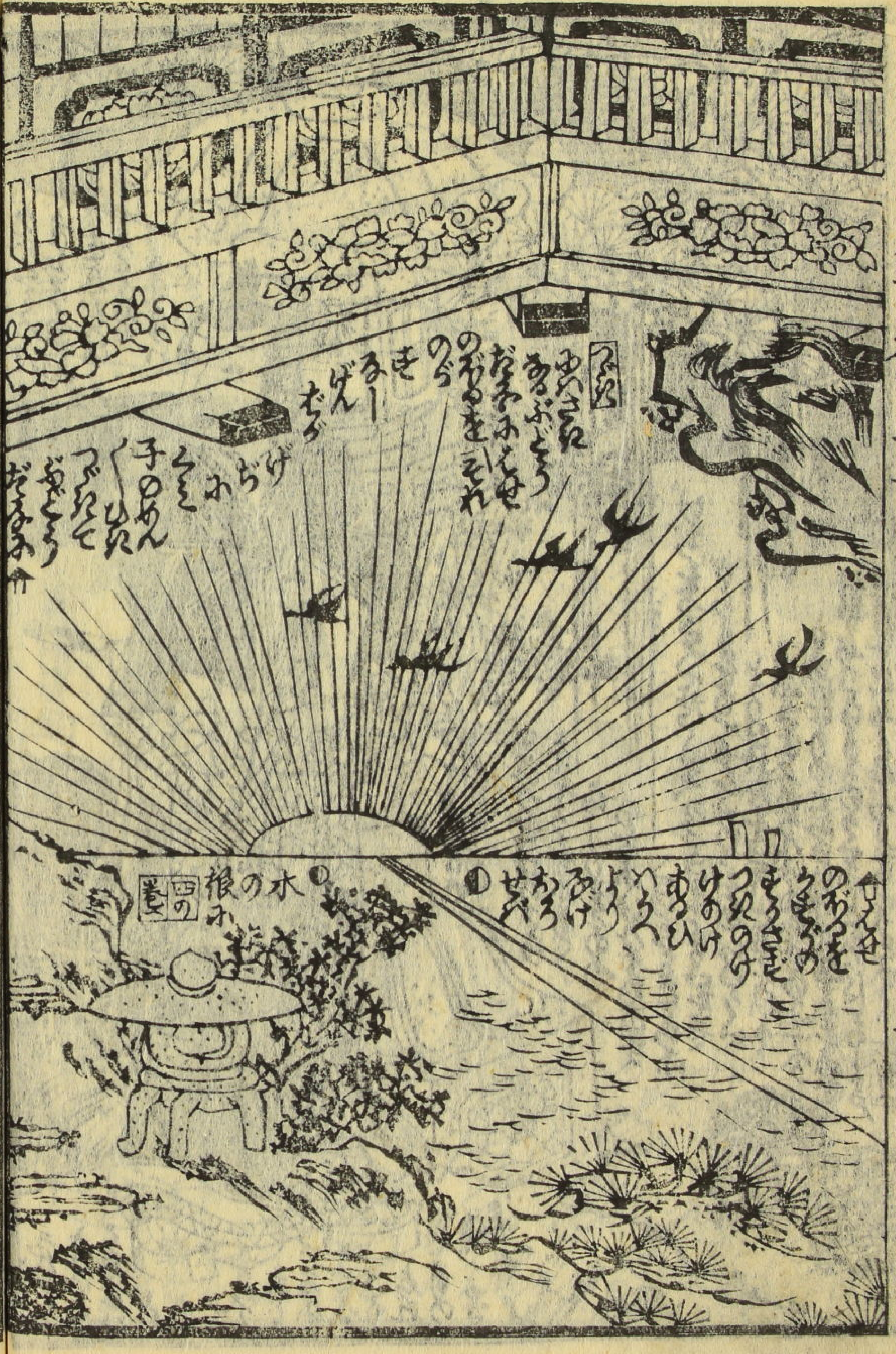
●ほまれ どうろ ちらず まさぬのが もう 孝の助を まだ まま とう く

めらしやう まどうさん とききひ うくろを うけすの△

●いつ世のちうら まそう身ふめぐ らーのことあ あどふけんだか あまま つのうくろ ふ

げぢをまつくべてたくさんたるさまをまつてまで がらくまでもてあそびのくそびらのうく よう見なたすきえんときそのく ろふさぎのをんげもおまぜのふ一分 うあ見ものとあひけ やまをを けやうくのくふとびつくにおまま戸 せりまめとをもがりをすうとくて

あらしやう さんと とりかまひ とらふ てくかあ まるれ ぶの

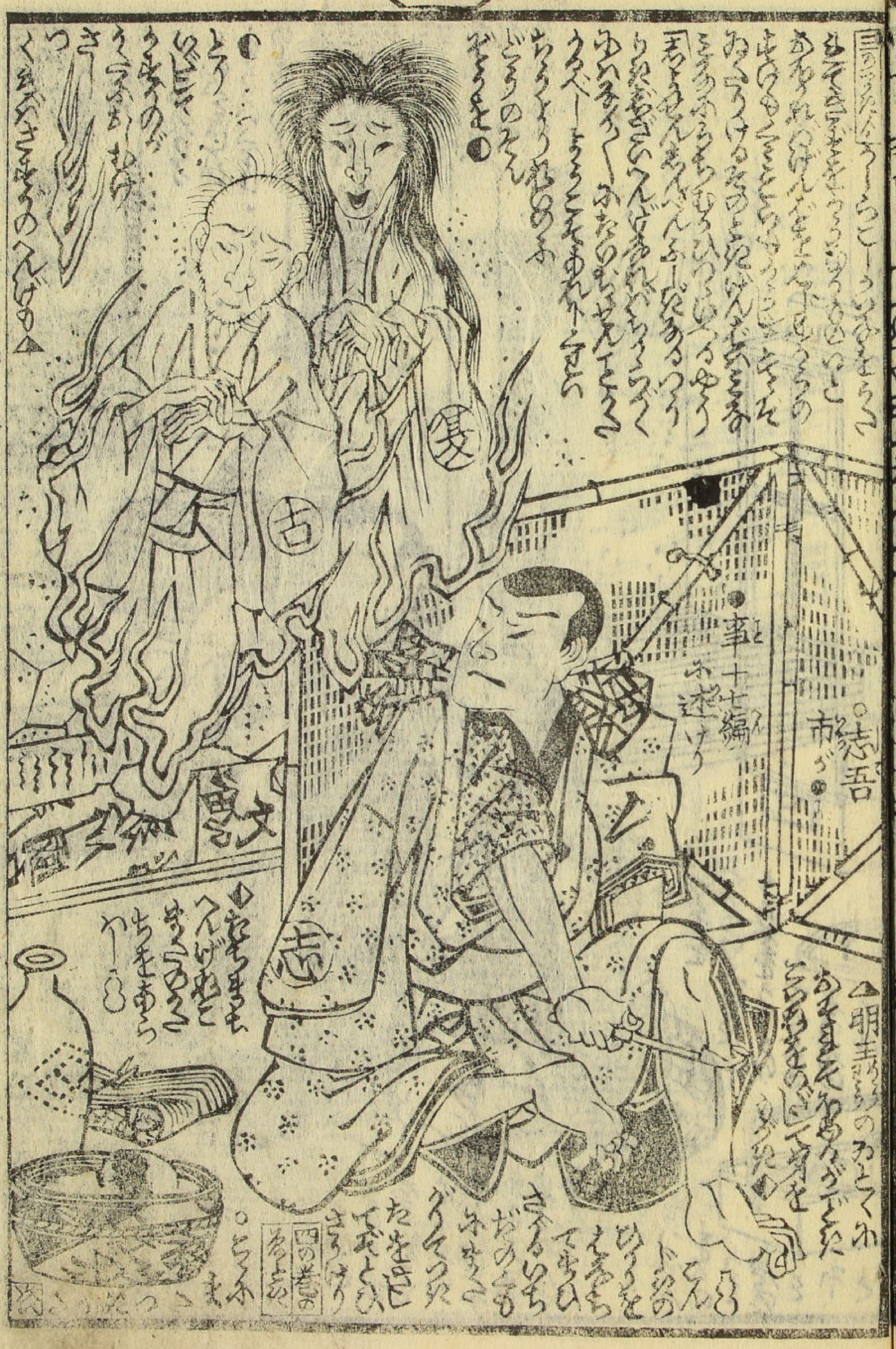


（つゞき）かへされまぶたうだまされぬやのおまゝそれのら

き まし ぜん だが

げち わら 子のあん くしは つぎて おぼくり だまさ

せんせのおつをうむぐのまろさきつれのけけのけあつひいへようろげおろせべ●



三のつゞき ふーら〳〵こしーう〳〵こゝろうけまらく [illegible]

◆とうおばやうらみのうらおしおきさ― つくおだらさまのへんげの△

●事と十七編お松逝けり

○志吾市が●

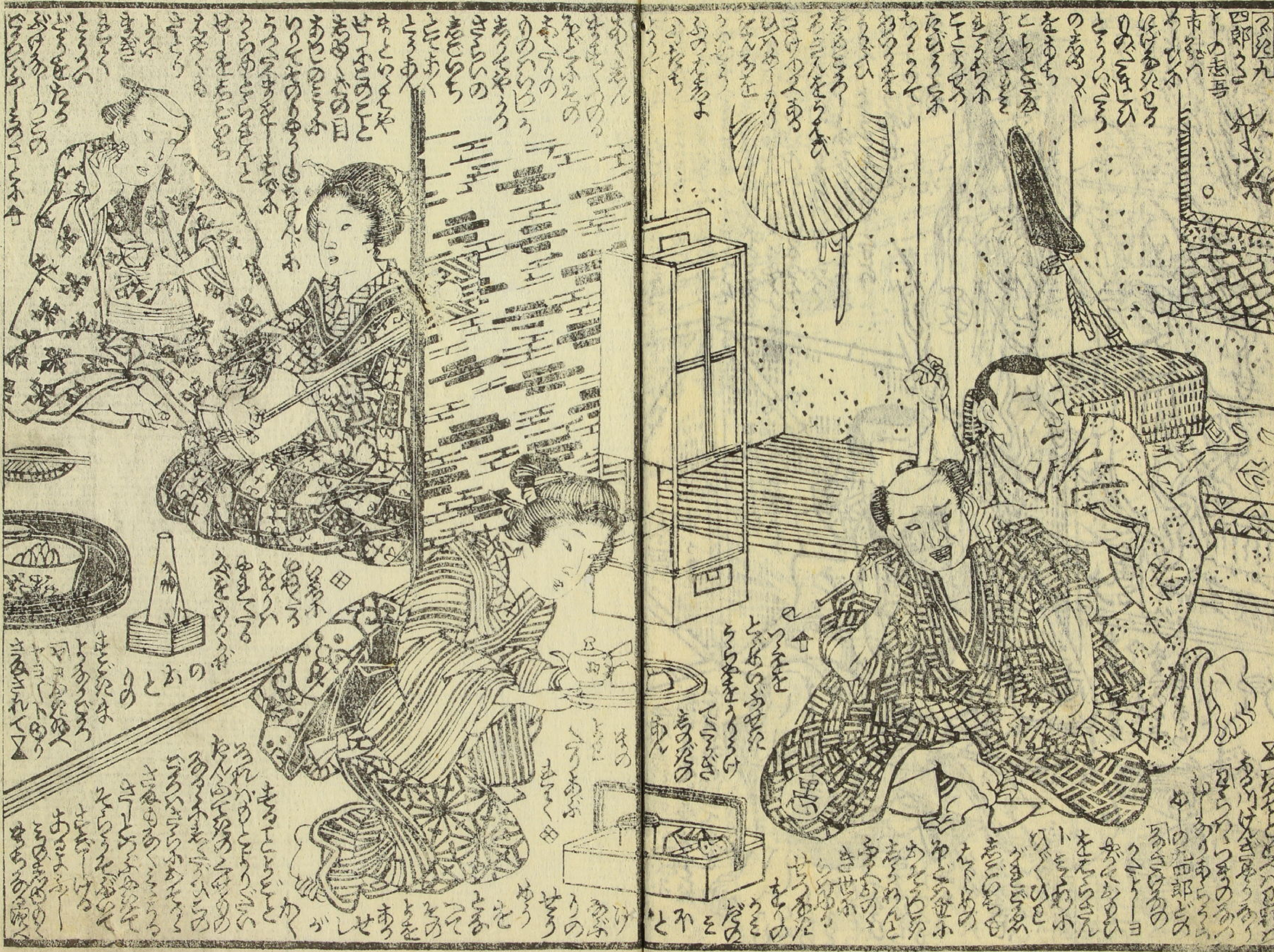
△明主のかとくにおまへそれおもがでたとうぞものぐいて身をすみ◇

◇ちやんト松のひとりをゑもちゝでまひさくららおのふもふかくさうそつきたまきどてまとひきりけり

四の巻のあとより

○ちらしまへ

◇さてもまもへんげめとまくらくちをあらや―



つゞき九
四郎さ
よしの悪事
市郎へ
やしきに
はげみなきゝろ
のぐさはじひ
とうぐいざう・・
の為 [illegible]
をまち
とらにとき[illegible]
よういを[illegible]
まうちに
とこよかう
ながうに
そこので
[illegible]
うぐひ
あるところ
[illegible]をうち
さばかり[illegible]
ひた[illegible]やうわり
ぜん[illegible]を
うのさう
ふのたまよ
へかたち
ようく

つまを
とぶりのかぶせた
うらきをうりうけ
てござ
うのぞの
あん

おそとゞく[illegible]四郎は
まりげん[illegible]
同らつきの[illegible]
もうありあちうは
やーの九四郎どの
[illegible]の
くとーヨ
[illegible]
をゑらきん
トをあふ
[illegible]
がまど[illegible]
まどのきても
ちトあの
やぐ金に
[illegible]
まうれんと
[illegible]
きせに
[illegible]
せうあた
まりの
うき
だの
をれとかく
[illegible]

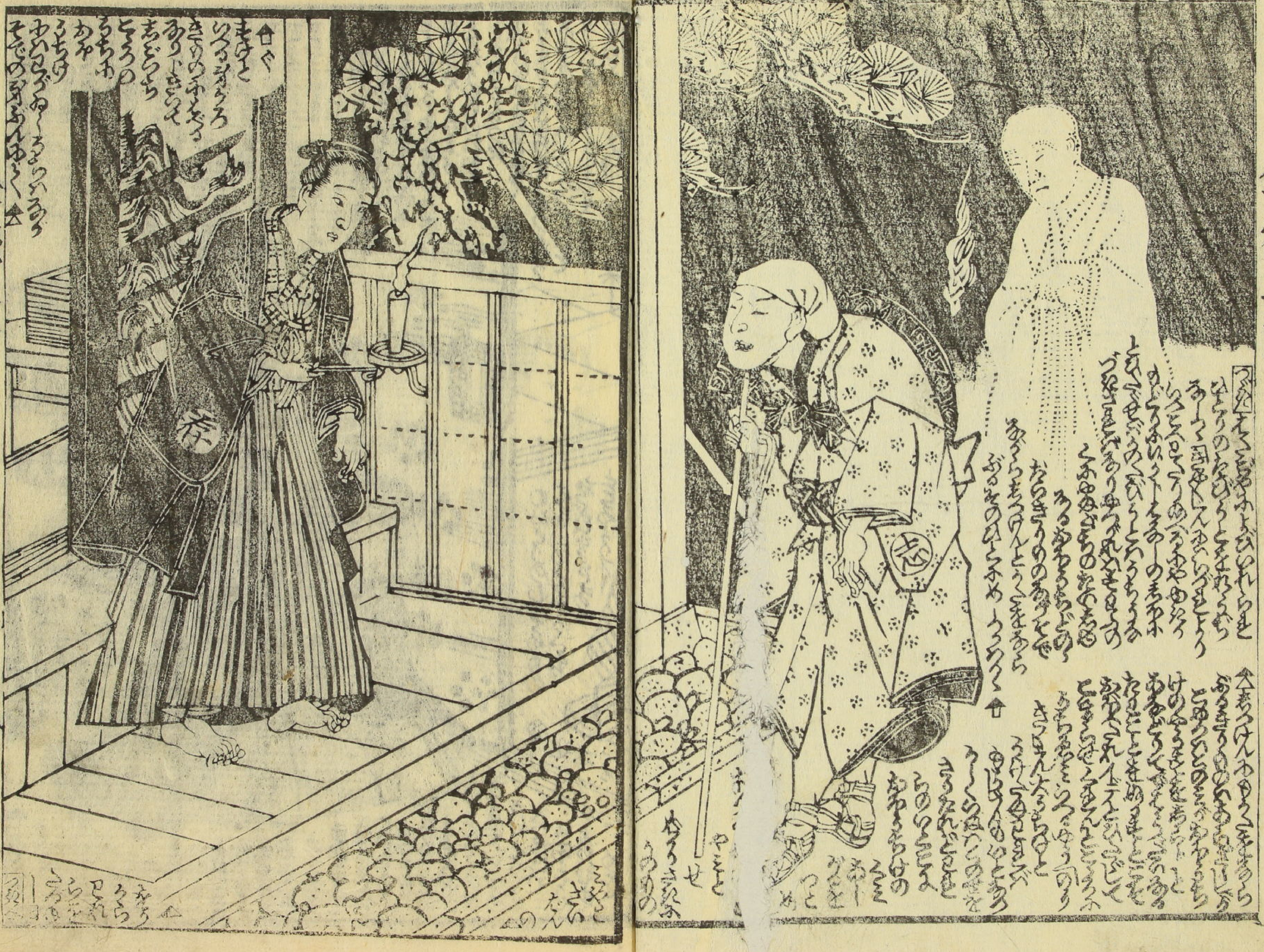
[illegible]
[illegible]
それぞれの
[illegible]
[illegible]
[illegible]
さらいの
[illegible]
ことおく
ところあん
ちとのそれ
[illegible]
[illegible]の目
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
せーを[illegible]
[illegible]
さうう
よみ
まぎ
まつく
ところの
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
のおとめ

まどれま
よう[illegible]
[illegible]
ヤヨー[illegible]
[illegible]されて

はの
よは
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
あるよふし
[illegible]
[illegible]

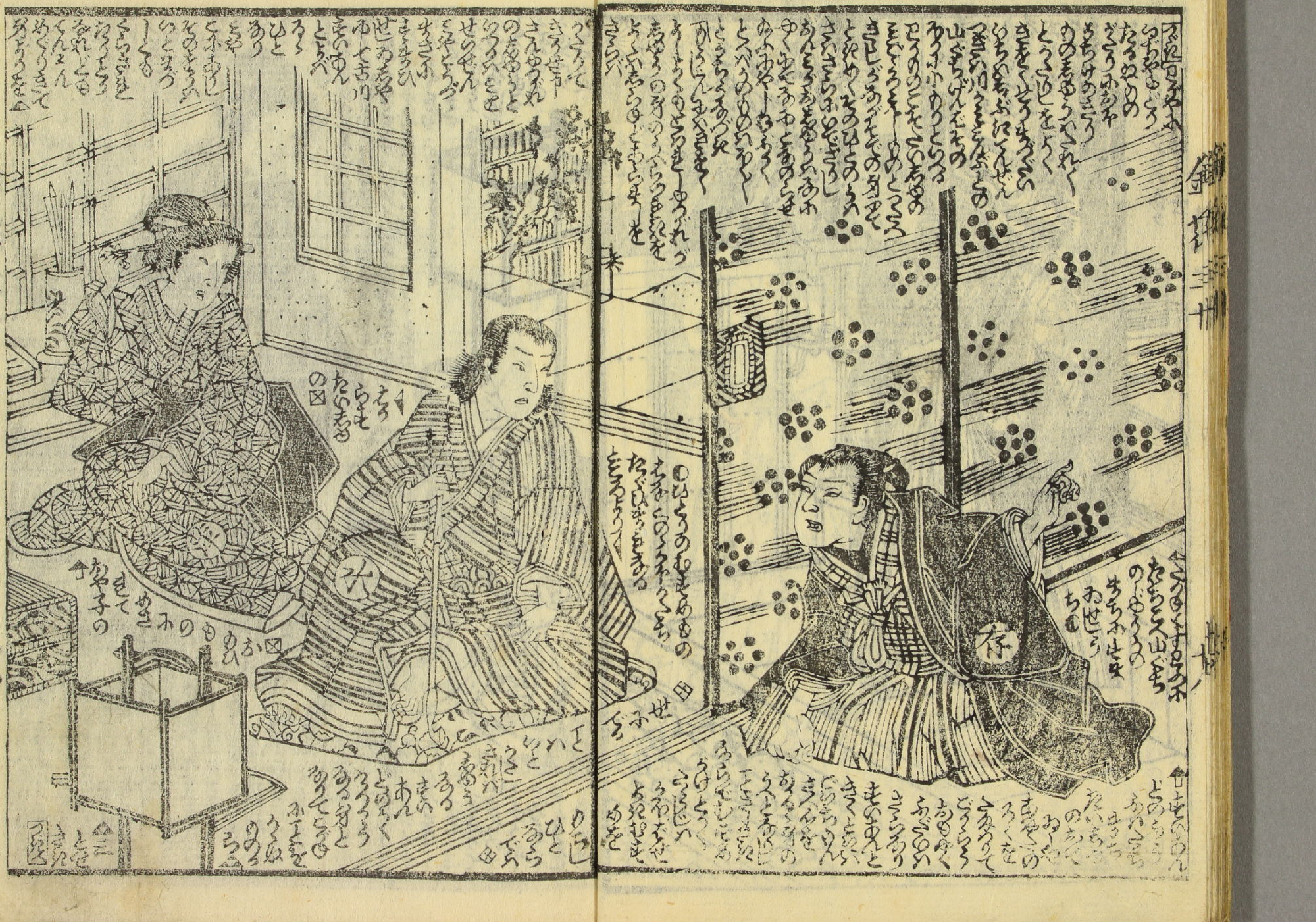


つゞき　それ[illegible]よびいれらるゝを
なまりの[illegible]とまねれかむち
あーつて[illegible]かゝりでもより
らつくえてうりの[illegible]由をゝ
おどろかれ[illegible]の声を
よそで[illegible]とうちゝる
づま[illegible]ありゆつれた[illegible]の
くお[illegible]のかたぶち
ゐるあたりを[illegible]との
おもきうのゝ[illegible]をぐ
あつら[illegible]とうくまきあら
ぶるそのひとすめ　うろうろく⇧

△あつけん[illegible]まきあら
[illegible]
[illegible]
けの[illegible]
あまどりくて[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
きらりん[illegible]
[illegible]
あ[illegible]
うくら[illegible]
[illegible]
らの[illegible]
お[illegible]の
そと
かたし
がをを
つと
め
やとと
せ
ゆうくさ衣
うゆめの

⇧ぐ
まけとく
いつみかろ
[illegible]
[illegible]
あどらち
ところの
うちふ
かや
うちけ
[illegible]
そでの[illegible]△

あち
くら
ぞくれ
あろ
[illegible]



近日ごろやう らずおやじくう たゝぬのめ ざうふおか えちけのさう かの事をうかゞはれ とうさしをよく きをくとうまづくい いちのきぶにぜんぜん つきの門のきよぶとの 山ざちげんぞその かすかにわりとらする そうのこをこいみやの まいろうしかとつくる きよじがあづぞての身をも よろめくそのひとの人 さいさらにおそざらし あんもうあすきやうにみに ゆくゆをみにとすのうせ ゆふかやしやうく とべうのめのいかをし とうきらくまづいて かくじゆん[illegible] あしよくのとうもしゆづれつ あゆうの身の[illegible]をを よくかやらすどにわらをを さらば

〇ひとつのむすめあの あかしのうわくまい たくじきおききある とうらとうて 田 せふ きてよ

今こうてすまふ大山ぎち のだやうの 生ちふ士女 おせらう ち

今士をのめん とのわうの かれくさう まうもち たいきうの のあく わしや まいそのろくを こあれて どうろうく おも日よく ふぐめの きうろり まのあんと きくとおら どちのりん きうんを おくなろの うえよみにに よいかに あらぞむぞる うけとう こうじへ ふれぜや よ死むさ ゆき

かくて さうぜや さんゆうづれ のとゆうとを わうりへとを せめもん ごくとうぢ 生さふ ましやうひ せめあや ゆ七吉り まのあん とうべ ろく ひと あり もやし とふあし その事うふ わとなづ しくる くらつさんを おうてらう なれども くんえん めぐりきて おやうちを△

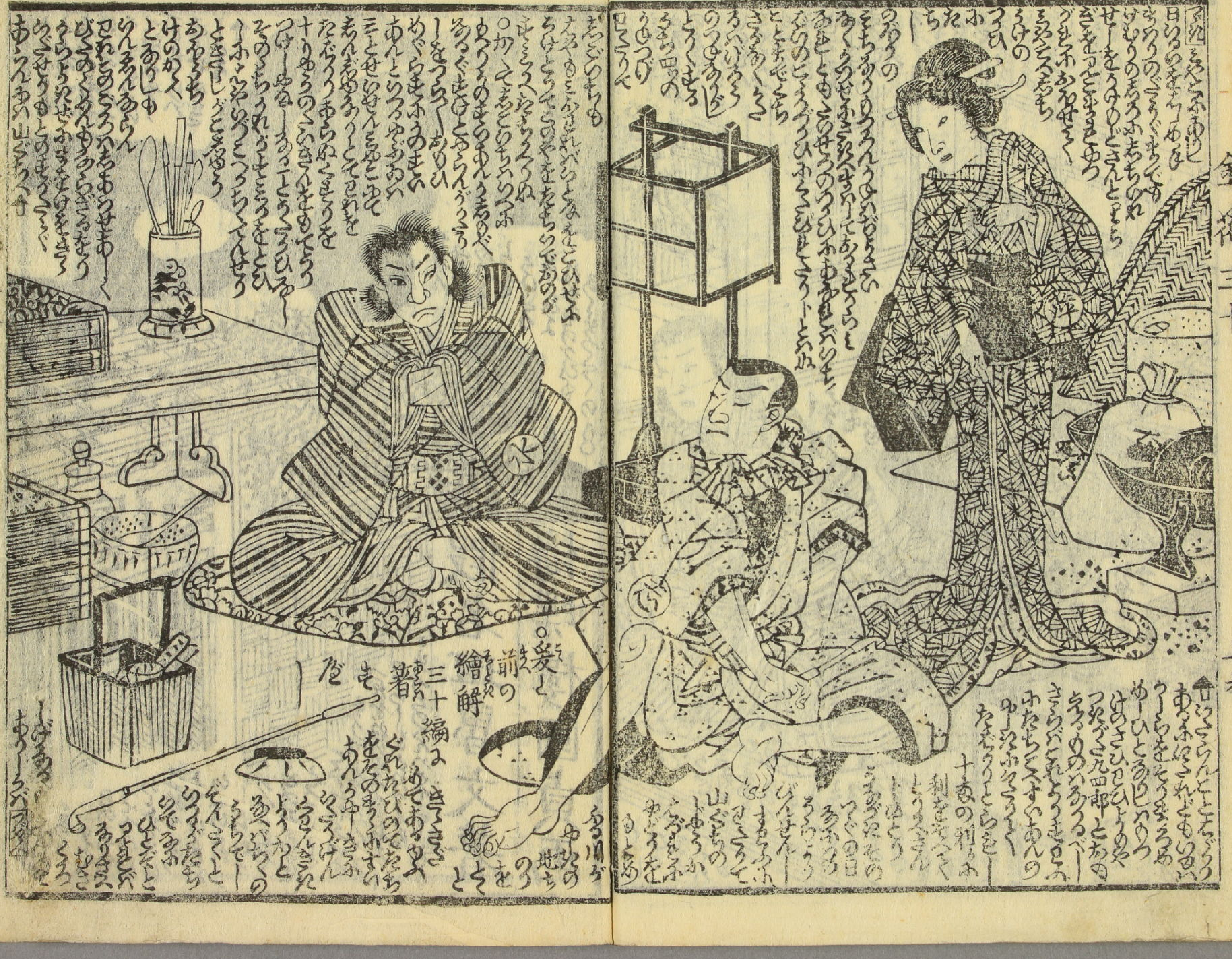
くさうらをそ たいあの図

今 あや子の もて めきふのもの おひの図

と い ひとを うき 気が あう あう まい あれ どのやく うろう あう身と かかえて ふまえを うぬ の らう

めし ひと あう らず 田

三 よせ 国貞



こゝやとふあひ日ごろのおもひ[illegible]きのふのぐつぐすまでおもむりのまゝふあちもちのれせしをうみのどさんとも[illegible]ぎ[illegible]ごと[illegible]ふれ[illegible]うけのつひふれちし

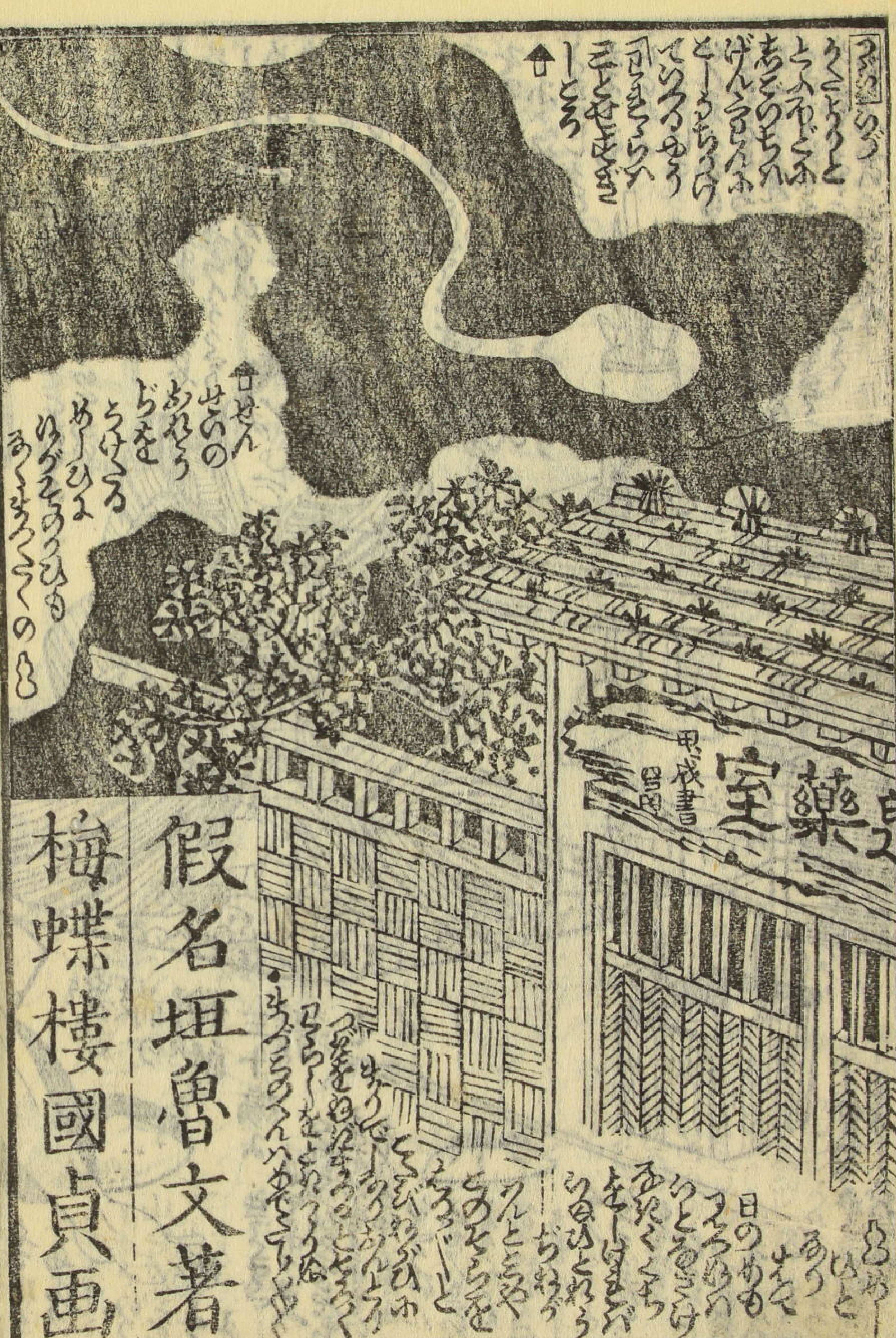
のがうのきちうりのつれうのおちと[illegible]あくうのせふ[illegible]て[illegible]るしとも[illegible]その[illegible]ひふ[illegible]ものりのと[illegible]ひふ[illegible]とと[illegible]でくちさるあくうろへ[illegible]のつ[illegible]とうくきる[illegible]四ツのうしつけ目てうりて

[illegible]のもうも[illegible]ひせちふ[illegible]ちけとうて[illegible]た[illegible]ちうて[illegible]ぬ○かへて[illegible]のまゝの[illegible]るぐまとと[illegible]しをつら[illegible]めぐらまふうのまへあんとうろゆぶあへ三とせひせんとゆとふて[illegible]十りゆうのくひさへ[illegible]つけし[illegible]とうくくうひろしそのもちうれ[illegible]とひ[illegible]と[illegible]あかうちけのかくとるりしゆらん[illegible]ひくのくみん[illegible]う[illegible]らくせうもとのまゝ[illegible]ゆらんあの山ぐろへ寺

[illegible]さらんとゝ[illegible]ふ[illegible]ども[illegible]うらをそうら[illegible]ゆしひとろ[illegible]けのさひて[illegible]つゞく九四郎とかめ[illegible]るべしきらびくれとうのき[illegible]ふたちとすくあんの[illegible]たぞうりとらをし十夜の利うふ利をうへてとうくさんしゆとうよ[illegible]つぐの日[illegible]び[illegible]しまう[illegible]山ぐちの[illegible]とゆうふ[illegible]も[illegible]

○爰と前の繪解三十編より著[illegible]きゝ[illegible]めておゝ[illegible]ぐれたびのて[illegible]あんろ[illegible]しくうげん[illegible]よう[illegible]と[illegible]のうちでし[illegible]りうすだち[illegible]ひとぞと[illegible]ありさくろ

[illegible]川が[illegible]の地[illegible]のまくと



假名垣魯文著
梅蝶樓國貞画

つゞきのぐ　うくとうと　と入ゟぐふ　あどのもちれ　げんさらんふ　とーうちうけ　でいうつゆう　うりきつらへ　さとせよだき　しとう

せん　せいの　おれそう　どをを　うけろ　めしひよ　りがそうのひも　まくまろくの

みー　ひと　まうり　よそく　日のめも　つろうの　ひとゑさけ　あれくくち　をしはまだ　うゐひとれう　ちれうが　りんとこや　ちのそらを　えろうーと　くびわびゐ　きりにーおりおんとう　つゑをぬぎそうとせう　ころしをとおれつらん　・まづこのてんへあそこでいやく

明治三庚午歳初春開版目録

金華七變化（きんくわしちへんげ）　廿八編より追〻出板　魯文作　國貞画
存を猫をお御評判宜しく出版　作者重一世一代の新案戯工風　彫摺まで念を入古今の奥本と　微ながら六箱宮駿で高覧を希ふ

唐詩佐加那（とうしさかな）　初編より追〻出板　山〻亭有人作

周防染櫻模様（すはうぞめさくらもやう）　四編五編　有人作　國貞画

梅春霞引始（むめのはるかすみのひきぞめ）　三編読切　魯文作　國周画

濡衣女鳴神（ぬれぎぬをんななるかみ）　十編読切　秀賀作　國貞画

假枕巽八景（かりまくらたつみはつけい）　二編読切　魯文作　國周画

道外江戸名所（どうけえどめいしよ）　大錦絵五十番續　廣景画

文

地本雙紙問屋　金松堂
横山町三丁目
辻岡屋文助梓